第２章　文化財の保存・活用に関する現状と課題

１　群馬県の概要

（1）　地理的・自然的な特徴

群馬県は日本列島のほぼ中央部に位置する。南東部を除く県境には山々が連なり、南東部には関東平野が開ける内陸県である。面積は約6,362㎢で、その約３分の２が山地である。「上毛かるた」に「つる舞う形の群馬県」とうたわれるように羽を広げた鶴の形にたとえられ、鶴の胸から首にあたる平野部と、両翼から尾の部分の山地や丘陵地帯に大きく分けられる。

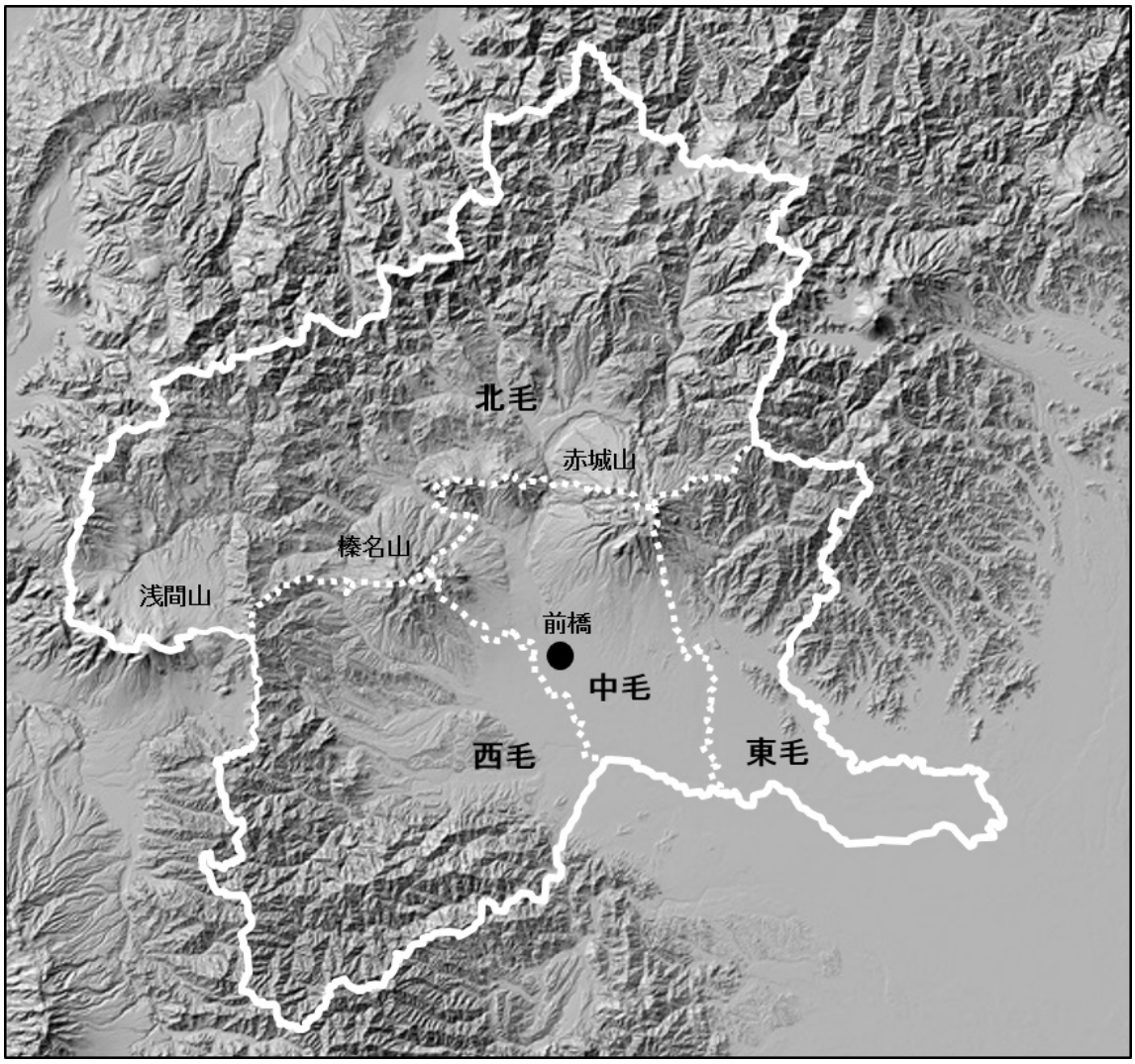
県境の山岳地帯は、谷川岳などの 2,000 m級の山々や、尾瀬ヶ原や芳ヶ平湿原群などの湿原、多くの湖沼等、変化に富んだ美しい自然に恵まれている。また、浅間山や草津白根山などの複数の火山が所在していることによって、浅間山の鬼押出し溶岩や草津白根山の湯釜のような独特の景観とともに、数多くの温泉も存在する。県では、これらの自然環境や温泉等の観光資源を活用し、「リトリートの聖地」を目指した様々な取組を行っている。

県最北端の大水上山を水源とする利根川は、片品川や吾妻川、烏川、碓氷川、鏑川、神流川、渡良瀬川等の支流を加え、県土を縦断している。これらの河川は、山地や丘陵地帯を流下する過程で、国の名勝や天然記念物に指定されている吾妻峡（長野原町・東吾妻町　国名勝）や三波石峡（藤岡市　国名勝及び天然記念物）、吹割渓ならびに吹割瀑（沼田市　国天然記念物及び名勝）等の渓谷や、典型的な河岸段丘等、変化に富んだ景観を形成している。特に沼田市周辺の河岸段丘は日本一美しいと称され、地理の教科書にもたびたび掲載されて、地元でもホームページ等で情報発信に努めている。近年は、利根川上流部でのラフティングやキャニオニング等のアウトドアスポーツも盛んで、外国からの観光客も増加している。

県の南東部は、関東平野に連なる平坦部となっており、緩やかに傾斜する扇状地性の台地や沖積地が広がっている。南東端の最も低い地点は標高 13m に満たず、利根川や渡良瀬川がもたらした豊かな水は、館林市の「里沼（SATO-NUMA）－『祈り』『実り』『守り』の沼が磨き上げた館林の沼辺文化－」（日本遺産）や、板倉町の「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」（国重要文化的景観）、渡良瀬遊水地（ラムサール条約湿地）等を形成してきた。

平野部と北部山間部との標高差が著しい群馬県では、気候や風土も両地域で大きく異なっている。平野部は太平洋側の気候に属し、夏は高温で雨が多い特徴がある。伊勢崎市や館林市などは、全国的にも暑い地域として知られている。冬は県境の山地を越えて乾いた「からっ風」が強く吹き下ろし、寒く乾燥した気候となっている。この「からっ風」は、夏の雷とともに群馬県を特徴付ける気象であり、かつては「かしぐね」という防風のための屋敷林を持つ農家も多数造られていた。乾燥した気候を利用して、伝統工芸品のだるまや、各種の農産乾物の生産も盛んであった。北部の山間部は日本海側の気候の影響を受け、冬は季節風に伴って雨や雪の降る日が多い。積雪量の多い吾妻地域や利根地域には、多くのスキー場が造られている。夏は冷涼な気候であるため、草津や水上等の温泉地を中心に避暑に訪れる観光客も多い。

このような標高差や気候差のある県土では、年間を通して多様な農畜産物が生産される。平野部では、冬に雨が少なく日照時間が長いため、米と麦との二毛作が広範囲に行われている。また山間地では、冷涼な気候を利用してキャベツやレタス等の高原野菜の栽培が盛んである。この他



第３図　群馬県地形図　（国土地理院地図の陰影起伏図を一部加工）

にも全国で上位の生産量を誇る野菜や畜産物も多く、東京圏を中心に日本各地に出荷されている。また、豊富な水資源を活かして複数のダムが建設され、首都圏の水源地としての機能も果たしている。

（２）歴史的な特徴

原始・古代　日本列島における人類文化の痕跡は、約３万８千年前から始まるとされる旧石器時代（約 38,000 年前～ 16,000 年前）に遡る。旧石器時代は狩猟採集によって食料を確保し、獲物となる動物などを追って遊動する生活であった。群馬県内でも、日本で初めて旧石器時代の遺跡と確認された岩宿遺跡（みどり市　国史跡）をはじめ、多くの遺跡が発見されている。高速道路や新幹線等の大規模な開発に伴って調査された遺跡が多く、赤城山南麓の丘陵性台地や、利根川や鏑川沿いの段丘上の台地に分布している。

縄文時代（約 16,000 年前～ 3,000 年前）に入ると土器の使用が始まり、地面を掘りくぼめた竪穴建物で居住し、集落が形成されるなど、より定住的な生活様式に変わっていく。平野部の台

地上や丘陵地帯に大規模な集落が展開し、山間地でも川沿いの段丘上に遺跡が残されている。矢瀬遺跡（みなかみ町　国史跡）では、発掘調査によって竪穴建物とともに祭祀跡や墓域などが発見され、当時の集落の構造を把握することができた。

弥生時代（約 3,000 年前～ 1,700 年前）は水田での稲作が開始され、群馬県内でも台地や丘陵上には環濠と呼ばれる溝に囲まれた集落が営まれ、隣接する谷地などを利用して水田が作られた。水田耕作に必要な木製農具も多数出土し、これらの作製には金属製品も使用されていたと推測される。弥生時代の初めの頃は大型の壷に骨を収めて埋葬する再葬墓が見られたが、中頃からは埋葬施設を溝で囲む周溝墓が造られるようになる。周溝墓からは、鉄剣や装身具などの副葬品が発見される例も多い。日高遺跡（高崎市　国史跡）では、環濠集落と水田跡、墓域がまとまって保存されている。

古墳時代（約 1,700 年前～ 1,300 年前）には、現在の群馬県域は「毛野」、後に「上毛野」と呼ばれ、東日本最大全長 210 mを測る天神山古墳（太田市　国史跡）をはじめとする数多くの大型前方後円墳を含め、大小合わせて 13,000 基以上の古墳が造られた。加えて観音山古墳（高崎市　国史跡）に代表される豪華な副葬品や豊富な埴輪等から、当時の群馬県域が東日本屈指の有力地域であったことがうかがえる。平野部では広く水田耕作が行われるようになり、高い農業生産力を背景に人口が増え、集落遺跡の数も増加していく。5 世紀後半頃には馬の飼育が開始された。このような発展は、新しい技術を持った渡来系の集団によってもたらされ、有力豪族がこれらを組織して地域支配の体制を確立していったとみられている。

その一方、古墳時代の群馬県域は、度々火山災害に見舞われ、大きな被害を受けている。3 世紀末の浅間山の噴火や、5 世紀末から 6 世紀前半にかけての 2 度の榛名山の噴火は、火山砕屑物や泥流等によって広範囲に被害をもたらした。「甲を着た古墳人」が発見されて大きな注目を集めた金井東裏遺跡（渋川市）や、「日本のポンペイ」と呼ばれ、古墳時代の集落が降下軽石で完全埋没した黒井峯遺跡（渋川市　国史跡）等は、榛名山の噴火による被災遺跡で、厚い火山砕屑物に埋もれていたために被災時の状況をそのまま現在に伝えている。山麓の集落や耕地に甚大な被害をもたらした火山災害であるが、発掘された遺跡からはそのたびに力強く復興した姿をうかがうこともできる。

古代の律令制度の下では、群馬県域は「上野国」と呼ばれ、五畿七道の東山道に含まれる。畿内から東北へ向かう玄関口に位置しており、古くから交通の要衝であった。上野国内には 13 の郡が置かれ、和銅 4 年（711）の多胡郡建郡により 14 郡となっている。東山道諸国には幹線道路である駅路が整備され、群馬県域では西から東に県土を横断しており、安中市、玉村町、太田市等でその遺構が確認されている。上野国は古代東国の政治と文化の中心地となり、ユネスコ「世界の記憶」に登録された山上碑・多胡碑・金井沢碑で構成される上野三碑（いずれも高崎市　国特別史跡）や、荘厳な七重の塔があった上野国分寺跡（前橋市・高崎市　国史跡）などは、当時の繁栄の姿を今に伝えている。しかし律令制の衰退とともに国力は衰え、関東一円を巻き込んだ平将門の乱により一層疲弊していく。平安時代末の天仁元年（1108）には、再び浅間山で大規模な噴火が発生し、上野国一帯に甚大な被害をもたらした。

中世・近世　中世には、12 世紀から摂関家等の所領として荘園が成立する。その代表例が県東部の新田荘であり、新田一族が荘内の各郷村に広がって、新田郡を支配していた。新田荘遺跡

（太田市　国史跡）には新田氏にゆかりのある館跡（反町館跡・江田館跡）、寺院、墓等は新田氏にゆかりのある館跡（反町館跡・江田館跡）、寺院、墓等が一体としてあり、荘園経営によって地域を支配していた中世武士の様相がうかがうことができる。南北朝期から室町期では鎌倉府の体制のもと守護上杉氏の支配下にあったが、やがて鎌倉府体制の衰退によって政治情勢は不安定化して戦国時代を迎え、戦乱に備えた城の築造が本格化する。さらに武田氏や上杉氏、後北条氏などの有力な戦国大名たちによる争奪の場となったことから卓越した規模や構造を持つ城館が造られ、その数は 1,000 以上に及んだとみられる。現在でも、鷹ノ巣城（下仁田町）や大戸城（東吾妻町）など山中に当時の面影をうかがわせる中世城館跡が数多く残されている。

近世に入ると幕府の北の守りとして重要視され、中～小規模の複数の藩と天領が入り交じって域内を支配していた。諸藩の藩主の一部は外様であったが、多くは大老や老中を務める譜代大名であった。徳川家康の関東入国当初に 1 万石以上の所領を与えられた大名は 11 氏を数え、その所領高は関東で最大の計 40 万石を超える。諸藩の一つである前橋藩には「関東の華」とたたえられた前橋城があり、跡地にある群馬県庁には今でも大規模な土塁が残されている。この前橋城は利根川の浸食により一時は廃棄され、当時の藩主であった松平家は川越へ移ったが、江戸時代末の慶応 3 年（1867）に再興された。

近世以降は、国内で絹の需要が高まるにつれ群馬県域でも養蚕が主要な産業となり、18 世紀代には全国でも有数の養蚕地帯となった。絹織物業も発展し、桐生や伊勢崎などが著名な産地として知られている。県内各地で「絹市」が開かれ、中山道や下仁田道などの陸路や利根川の舟運によって各地に出荷された。このような蚕糸業の隆盛に伴う経済力を背景に、装飾的な建築様式の神社や寺院が造られ、歌舞伎や人形芝居等の民俗芸能が農民の間に広がっていった。生糸等の物流が盛んになるにつれて街道も発達し、交通網が整備された。

その一方、天明 3 年（1783）には浅間山が噴火し、噴出した火砕流や岩屑なだれや、吾妻川から利根川を流れ下った泥流により大きな被害がもたらされた。この未曾有の災害については古文書や慰霊碑等の記録が残されているとともに、発掘調査によって被災の状況が明らかとなってきている。泥流は現在の玉村町や伊勢崎市付近でも集落や田畑に被害を及ぼし、犠牲者の遺体は当時の江戸にまで流れ着いた。利根川流域には、群馬県域のみならず、埼玉県や東京都にも犠牲者を悼む慰霊碑が建てられている。

江戸時代末期には、水戸の天狗党と高崎藩とが交戦した下仁田戦争（元治元年（1864））や、各地での世直し一揆の勃発等、幕府と尊皇攘夷派との争いを背景に社会情勢の混乱が見られた。

近代・現代　明治 4 年（1871）の廃藩置県の後「群馬県」が成立し、明治 9 年（1876）にはほぼ現在の形となる。幕末の横浜開港と生糸貿易の開始により、蚕糸業は近代になるとさらに発展し、日本で初めての官営製糸場である富岡製糸場（富岡市　世界遺産・国宝、国重文、史跡）の建設にもつながった。田島弥平旧宅（伊勢崎市　世界遺産・国史跡）や高山社跡（藤岡市　世界遺産・国史跡）など家屋を蚕種製造・養蚕のために改造した農家建築が県内各地で隆盛し、西毛地域では碓氷社（安中市　事務所が県重文）など養蚕農家が組合をつくり輸出生糸を共同出荷した。織物業でも力織機が登場し、桐生には日本織物会社のような大工場も現れた。生糸の輸出のために群馬県内を通る鉄道も早い段階から検討され、明治 17 年（1884）には上野から前橋までの路線が開業している。また、豊かな水源を利用して明治 20 年代には水力発電事業も始まり、大正期

にかけて多くの発電所が建設され、電信電話・郵便などの通信業も整備された。こうしたインフラは群馬の過半を占める山間地域にもおよび、長野県境に位置する下仁田町では荒船風穴（世界遺産　国史跡）が蚕種貯蔵所として整備され、さらに蚕糸業を発展させることになる。このような蚕糸業を中心とした経済力は、金融業や商業の発展をうながし、教育や文化の面や国際化にも影響を与えた。特に注目されるのはキリスト教の発展で、新島襄や内村鑑三ら日本を代表するキリスト教徒を輩出し、島村教会（伊勢崎市　国登録）・名久多教会（高山村　村重文）など県内各地に農村教会が建設された。

大正期は、電気動力の導入による技術革新や、第一次世界大戦の特需により群馬県の経済はさらに発展したが、戦争終結後は戦後不況と生糸の価格低迷により経済は停滞することとなる。
昭和に入り、昭和 12 年（1937）に日中戦争が始まると、群馬県民の生活にもその影響が強まってくる。終戦間際には、中島飛行機など軍需産業が盛んだった太田市や、前橋市、高崎市、伊勢崎市等が空襲により大きな被害を受けている。

終戦後は、戦後の復興期から高度成長期を通じて、自動車や電気機器等の製造業が発展を遂げる。新幹線や高速道路などの交通網の整備も進み、東京圏と日本海側とをつなぐ高速交通の要衝となった。現在は、東京圏から短時間で到着でき、土地の確保も容易で比較的災害が少ないことから、広大な工業団地を造成して企業誘致が進められている。近世以降盛んであった「ものづくり」産業を基盤とし、高い技術力を持った多くの企業が自動車や電子機器等の製造業を支え、地域経済の主力となっている。

文化面では、終戦直後の昭和 20 年（1945）11 月に日本初の地方オーケストラ「高崎市民オーケストラ」が創設され、児童・生徒を対象とした移動音楽教室など、県内各地で演奏活動を行い、昭和 38 年（1963）には「群馬交響楽団」と改名し、現在もなお群馬県の文化の象徴として多くの県民に親しまれている。また、昭和 22 年（1947）12 月に作成された「上毛かるた」は、終戦後の無力感があふれるなか、県民の誇りと思いを取り戻すため、群馬県の歴史や自然、産業等をよんだ郷土かるたであり、全国に県民性を特色づけるものとして知られるようになり、現在でも子どもたちの競技大会が盛んに行われている。明治の初めから陸軍の施設としてダイナマイトなどを製造していた岩鼻火薬製造所の跡地は、昭和 49 年（1974）に開園した県営の都市公園「群馬の森」として、シラカシ植林地が広がる広大な敷地内に芝生広場や散策路などが整備され、県立近代美術館や歴史博物館とともに、県民の憩いの場となっている。

２　群馬県内の文化財の概要

４つの地域区分　群馬県は、その地形的な特徴から多種多様な自然環境が存在する。上越県境の急峻な山々から関東平野の端部にあたる平坦地に至るまで、さまざまな景観が県土の中に共存しており、その中ではぐくまれた豊富な文化財が県内各地に残されている。群馬県は伝統的に中毛・西毛・東毛・北毛に地域区分されてきた。地域によって固有の文化財の様相がみとめられることから、４つの地域別に文化財の概要を記す。

（１）中毛地域

地域の概要　県中央部の前橋市、伊勢崎市、渋川市、佐波郡玉村町、北群馬郡榛東村・吉岡町の 3 市 2 町 1 村である。地形的には、北部に位置する赤城山・子持山・小野子山・榛名山という

大小の火山と、その山麓の扇状地や高原台地、関東平野北西部の平野部からなり、地域の中央を北から南東に向けて利根川が流れている。

主な文化財　赤城山南麓を中心に、旧石器時代から近世に至る数多くの遺跡が分布しており、大型の前方後円墳を含む多数の古墳や、山王廃寺跡（前橋市　国史跡）、上野国分寺跡（前橋市・高崎市　国史跡）、上野国分尼寺跡（前橋市・高崎市　国史跡）等の古代の寺院、特徴的な八角形倉庫を持つ上野国佐位郡正倉跡（伊勢崎市　国史跡）、中世の大規模な用水路である女堀（前橋市・伊勢崎市　国史跡）等が注目される。また、5 世紀末から 6 世紀前半にかけて発生した榛名山の噴火による被災遺跡が、榛名山麓の渋川市や前橋市を中心に広く分布している。天明 3 年（1783）の浅間山噴火の際は、広範囲に軽石が降り積もったほか、浅間山北麓から吾妻川、利根川の流域で泥流被害による被災遺跡が分布している。

地域の西側には三国街道が南北に延び、南部を日光例幣使道が東西に横切っている。杢ヶ橋関所跡（渋川市　県史跡）や井田家住宅（玉村町　町重文）、五料の関所跡（玉村町　町史跡）等、当時の街道や宿場の様相をうかがえる建物や町並みが残されている。利根川の舟運も盛んで、地域内に多くの河岸が造られた。その中でも、五料の関所跡があった五料宿は水陸交通の要衝地として栄え、この地域では、水難除けを祈る五料の水神祭（玉村町　国記録選択・県重無形民俗）が現在でも行われている。

近世以降は養蚕が盛んな地域であり、養蚕に特化した伝統的な赤城型・榛名型等の養蚕農家が造られる。近代に入ると、田島弥平（1822 ～ 1898 年）が総 2 階建てヤグラ付の養蚕農家を考案し、養蚕業の研究・教育機関であった高山社によって、清温育という養蚕技術とともに広く普及した。世界遺産の「田島弥平旧宅」（伊勢崎市　国史跡）や「塩原家住宅」（前橋市　国重要文化財）、「小茂田家住宅」（伊勢崎市　国登録文化財）を始め、農村部を中心に数百棟を越える近代養蚕農家が現存している。

第 1 表　中毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧（1）

No.	文化財種類	名称	所在市町村	No.	文化財種類	名称	所在市町村
1	国重文(建)	玉村八幡宮本殿	玉村町	26	国史跡	八幡山古墳	前橋市
2	国重文(建)	阿久沢家住宅	前橋市	27	国史跡	上野国分寺跡	前橋市・（高崎市）
3	国重文(建)	臨江閣	前橋市	28	国史跡	山王廃寺跡	前橋市
4	国重文(建)	笠卒塔婆	渋川市	29	国史跡	瀧沢石器時代遺跡	渋川市
5	国重文(建)	塩原家住宅	前橋市	30	国史跡	女堀	前橋市・伊勢崎市
6	国重文(美)	鉄造 阿弥陀如来坐像	前橋市	31	国史跡	十三宝塚遺跡	伊勢崎市
7	国重文(美)	石造 不動明王立像	渋川市	32	国史跡	黒井峯遺跡	渋川市
8	国重文(美)	上野国山王廃寺 塔心柱根巻石	前橋市	33	国史跡	茅野遺跡	榛東村
9	国重文(美)	埴輪 男子立像	伊勢崎市	34	国史跡	上野国佐位郡正倉跡	伊勢崎市
10	国重文(美)	埴輪 男子立像	伊勢崎市	35	国史跡	田島弥平旧宅	伊勢崎市
11	国重文(美)	埴輪 男子倚像	伊勢崎市	36	国天然	横室の大カヤ	前橋市
12	国重文(美)	埴輪 武装男子立像	伊勢崎市	37	国天然	華蔵寺のキンモクセイ	伊勢崎市
13	国重文(美)	土偶	前橋市	38	国天然	敷島のキンメイチク	渋川市
14	国重文(美)	深鉢形土器、浅鉢形土器 (房谷戸遺跡出土品)	渋川市 *	39	国天然	岩神の飛石	前橋市
15	国重文(美)	群馬県茅野遺跡出土品	榛東村	40	国選択無民	上三原田の歌舞伎舞台の装置・操作	渋川市
16	国重文(美)	群馬県道訓前遺跡出土品	渋川市	41	国選択無民	下長磯の式三番	前橋市
17	国重文(美)	群馬県金井遺跡群出土品	渋川市 *・（高崎市）	42	国選択無民	五料の水神祭	玉村町
18	国重文(美)	群馬県行政文書	前橋市	43	県重文(建)	空恵寺山門	渋川市
19	国重有民	上三原田の歌舞伎舞台	渋川市	44	県重文(建)	渋川八幡宮本殿	渋川市
20	国重無民	樋越神明宮の春鍬祭	玉村町	45	県重文(建)	上野総社神社本殿	前橋市
21	国史跡	前二子古墳	前橋市	46	県重文(建)	三夜沢赤城神社本殿内宮殿	前橋市
22	国史跡	中二子古墳	前橋市	47	県重文(建)	三夜沢赤城神社本殿並びに中門	前橋市
23	国史跡	後二子古墳ならびに小古墳	前橋市	48	県重文(建)	水沢寺六角二重塔	渋川市
24	国史跡	総社古墳群	前橋市	49	県重文(建)	赤城神社惣門	前橋市
25	国史跡	二子山古墳 (文京町)	前橋市	50	県重文(建)	旧アメリカンボード宣教師館	前橋市

註　前橋市 *：群馬県立文書館蔵　渋川市 *：群馬県埋蔵文化財調査センター蔵

第２表　中毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧（2）

No.	文化財種類	名称	所在市町村	No.	文化財種類	名称	所在市町村
51	県重文(建)	旧蚕糸試験場事務棟	前橋市	120	県史跡	小室敷石住居跡	渋川市
52	県重文(建)	産泰神社	前橋市	121	県史跡	渋川金井製鉄遺跡	渋川市
53	県重文(建)	相川家茶室 [觴華庵]	伊勢崎市	122	県史跡	八木沢清水縄文時代住居跡	渋川市
54	県重文(建)	旧入澤家住宅	渋川市	123	県史跡	中筋遺跡	渋川市
55	県重文(建)	水沢寺	渋川市	124	県史跡	三原田諏訪上遺跡瓦塔設置仏教遺溝	渋川市
56	県重文(建)	産泰神社	前橋市	125	県史跡	斉藤宜義の墓	玉村町
57	県重文(建)	雙林寺	渋川市	126	県史跡	鳥酔翁塚	渋川市
58	県重文(建)	下植木赤城神社石造美術群	伊勢崎市	127	県史跡	力田遺愛碑	前橋市
59	県重文(建)	天増寺宝塔	伊勢崎市	128	県史跡	石田玄圭の墓	前橋市
60	県重文(建)	横沢の石塔婆	前橋市	129	県史跡	宝篋印塔	渋川市
61	県重文(建)	宮子の笠塔婆	伊勢崎市	130	県史跡	吉田芝渓の墓	渋川市
62	県重文(美)	十一面観世音像	前橋市	131	県史跡	船津伝次平の墓	前橋市
63	県重文(美)	木彫狛犬	渋川市	132	県史跡	堀口藍園の墓	渋川市
64	県重文(美)	長尾昌賢木像	渋川市	133	県史跡	馬場重久の墓	吉岡町
65	県重文(美)	金銅善光寺三尊仏	伊勢崎市	134	県史跡	金井鳥洲と一族の墓	伊勢崎市
66	県重文(美)	納曾利面	前橋市	135	県史跡	杢ヶ橋関所跡	渋川市
67	県重文(美)	木造十一面観音立像	前橋市	136	県史跡	上泉郷蔵	前橋市
68	県重文(美)	洪鐘	渋川市	137	県名勝	滝沢の不動滝	前橋市
69	県重文(美)	梵鐘	前橋市	138	県天然	桜森のヒガンザクラ	渋川市
70	県重文(美)	横室の歌舞伎衣裳	前橋市	139	県天然	時沢の夫婦マツ	前橋市
71	県重文(美)	太刀 銘備前長船実光 応永九年三月日	玉村町	140	県天然	大山祇神社の大フジ	渋川市
72	県重文(美)	脇差 銘山城國住越中守藤原正俊	伊勢崎市	141	県天然	雙林寺の大カヤ	渋川市
73	県重文(美)	刀 銘備前國住長船五郎左右衛門尉清光作	前橋市	142	県天然	雙林寺の千本カシ	渋川市
74	県重文(美)	脇差 銘 (桜花打込) 英義作	渋川市	143	県天然	藍園墓地の大ケヤキ	渋川市
75	県重文(美)	短刀 銘於東都藤枝英義造	前橋市	144	県天然	早尾神社の大ケヤキ	渋川市
76	県重文(美)	なぎなた 銘於東武英義作之	前橋市	145	県天然	月田のモチノキ	前橋市
77	県重文(美)	総社神社懸仏	前橋市	146	県天然	金蔵寺のシダレザクラ	渋川市
78	県重文(美)	雲版	前橋市	147	県天然	連取のマツ	伊勢崎市
79	県重文(美)	石山観音の大鰐口	伊勢崎市	148	県天然	下郷の大クワ	渋川市
80	県重文(美)	小栗上野介日記及び家計簿	渋川市	149	県天然	溝呂木の大ケヤキ	渋川市
81	県重文(美)	縁切寺満徳寺文書	伊勢崎市	150	県天然	三夜沢赤城神社のたわらスギ	前橋市
82	県重文(美)	三夜沢赤城神社の古文書	前橋市	151	県天然	祖母島のキンモクセイ	渋川市
83	県重文(美)	総社本上野国神名帳	前橋市	152	県天然	境高校のトウカエデ	伊勢崎市
84	県重文(美)	前橋藩松平大和守家記録	前橋市	153	県天然	金島の浅間石	渋川市
85	県重文(美)	渡邊家文書「三右衛門日記」	玉村町	154	国登録(民)	前橋の養蚕・製糸用具及び関連資料	前橋市
86	県重文(美)	飯塚家文書	前橋市	155	国登録(建)	群馬県庁本庁舎	前橋市
87	県重文(美)	木曽三柱神社蔵石剣	渋川市	156	国登録(建)	群馬会館	前橋市
88	県重文(美)	お富士山古墳所在長持形石棺	伊勢崎市	157	国登録(建)	前橋市水道資料館 (旧浄水構場事務所)	前橋市
89	県重文(美)	渋川市道訓前遺跡出土品一括	渋川市	158	国登録(建)	前橋市浄水場配水塔	前橋市
90	県重文(美)	小泉長塚１号古墳出土品一括	玉村町	159	国登録(建)	伊香保観光ホテル	渋川市
91	県重文(美)	小泉大塚越３号古墳出土品一括	玉村町	160	国登録(建)	萩原家住宅	前橋市
92	県重文(美)	上白井西伊熊遺跡出土品一括	渋川市	161	国登録(建)	広瀬川美術館 (旧近藤嘉男アトリエ及び絵画教室ラ・ボンヌ)	前橋市
93	県重文(美)	山王廃寺出土塑像群	前橋市	162	国登録(建)	堀口家住宅	渋川市
94	県重文(美)	石倉文書	伊勢崎市	163	国登録(建)	石坂家住宅	渋川市
95	県重文(美)	元禄上野国絵図	前橋市	164	国登録(建)	前橋カトリック教会聖堂	前橋市
96	県重有民	津久田の人形舞台	渋川市	165	国登録(建)	重田家住宅	玉村町
97	県重有民	白井の鋳物生産用具及び製品	渋川市	166	国登録(建)	小茂田家住宅	伊勢崎市
98	県重有民	利根川中流域玉村町の漁撈用具一括	玉村町	167	国登録(建)	旧安田銀行担保倉庫	前橋市
99	県重無民	下長磯あやつり式三番 (附 人形－３個)	前橋市	168	国登録(建)	上毛電気鉄道大胡駅	前橋市
100	県重無民	広馬場十三区の地蔵祭り	榛東村	169	国登録(建)	上毛電気鉄道荒砥川橋梁	前橋市
101	県重無民	月田近戸神社の獅子舞	前橋市	170	国登録(建)	前橋中央児童遊園 (るなぱあく)	前橋市
102	県重無民	千本木龍頭神舞	伊勢崎市	171	国登録(建)	旧勝山社煉瓦蔵	前橋市
103	県重無民	下南室太々御神楽の養蚕の舞	渋川市	172	国登録(建)	日本基督教団島村教会	伊勢崎市
104	県重無民	五料の水神祭	玉村町	173	国登録(建)	上毛電気鉄道粕川橋梁	前橋市
105	県重無民	春日神社太々神楽の蚕の舞	前橋市	174	国登録(建)	玉村八幡宮末社国魂神社（旧玉村尋常高等小学校奉安殿）	玉村町
106	県史跡	鏡手塚古墳	前橋市	175	国登録(建)	旧本間酒造	前橋市
107	県史跡	壇塚古墳	前橋市	176	国登録(建)	旧大竹酒造煉瓦蔵	前橋市
108	県史跡	虚空蔵塚古墳	渋川市	177	国登録(建)	横手館本館	渋川市
109	県史跡	高塚古墳	榛東村	178	国登録(建)	金井義明家住宅	伊勢崎市
110	県史跡	前橋天神山古墳	前橋市	179	国登録(建)	田島善一家住宅	伊勢崎市
111	県史跡	堀越古墳	前橋市	180	国登録(建)	田島達行家住宅	伊勢崎市
112	県史跡	中ノ峯古墳	渋川市	181	国登録(建)	町田清家住宅	伊勢崎市
113	県史跡	三津屋古墳	吉岡町	182	国登録(建)	田島新一家住宅	伊勢崎市
114	県史跡	荒砥富士山古墳	前橋市	183	国登録(建)	旧相川家住宅	伊勢崎市
115	県史跡	南下古墳群	吉岡町	184	国登録(建)	下村家住宅	前橋市
116	県史跡	膳城跡	前橋市	185	国登録(建)	江原本家	前橋市
117	県史跡	大胡城跡	前橋市	186	国登録(建)	江原本家上毛倉庫	前橋市
118	県史跡	長井坂城跡	渋川市・昭和村	187	県登録(歴)	上毛かるた関係資料	前橋市*・(高崎市)
119	県史跡	櫃石	前橋市	188	県登録(歴)	古墳調査台帳（『上毛古墳綜覧』作成基礎資料）	前橋市*

註　前橋市*：群馬県立文書館蔵　渋川市*：群馬県埋蔵文化財調査センター蔵

また、県庁が置かれた前橋市には、群馬県庁昭和庁舎や群馬会館（いずれも国登録）、臨江閣（国重要文化財）等政治に関わる施設や、近代化を支えた鉄道や水道の施設、金融や商業に関わる建物が残されている。現役の施設として稼働しているものも多いが、飲食店等、本来とは異なる形で利用されているものもある。

民俗文化財は、郊外の神社に神楽や獅子舞が継承されている他、歌舞伎や人形芝居も残っている。特に、上三原田の歌舞伎舞台（渋川市　国重要有形民俗文化財）は、地域の全戸が保存会に属し、地域総がかりで継承に取り組んでいることで注目される。

（２）西毛地域

地域の概要　県南西部の高崎市、藤岡市、富岡市、安中市、多野郡上野村・神流町、甘楽郡下仁田町・南牧村・甘楽町の４市３町２村からなる。西は長野県、南は埼玉県と接している。西半部には、妙義山（富岡市・安中市・下仁田町　国名勝）等の県境から連なる山地と、烏川や碓氷川、鏑川、神流川等の河川を境に東西方向に延びる丘陵が展開し、東半部は関東平野へつながる沖積地が広がっている。

主な文化財　東半の平野部は、県内でも大型の前方後円墳が集中している地域で、古墳時代には有力な豪族が支配する地域であった。保渡田古墳群（高崎市　国史跡）や白石古墳群（藤岡市国史跡・県史跡を含む）等のほか、豪族の居館である三ツ寺Ⅰ遺跡（高崎市）や北谷遺跡（高崎市　国史跡）も発見されている。榛名山南東麓では、豪族の経済力を支えた広大な水田跡が見つかっているが、ここでも榛名山噴火による被害の実情が確認されている。

また西毛地域には、古くから日本海側や畿内と関東をつなぐヒトやモノの移動ルートが存在していた。旧石器時代や縄文時代には、主要な石器石材であった長野県産黒曜石の搬入路となっており、河川沿いの段丘上に多くの遺跡が残されている。古代には東山道駅路が置かれ、都へ租税を運ぶ人々や北九州へ派遣される防人、蝦夷の地へ向かう兵士、さらに都に進上される馬等が行きかっていた。近世には中山道（安中市　碓氷関所跡と、碓氷峠越を登り峠に位置する熊野神社までの約 8km は国史跡）や下仁田道、十国街道等が整備され、大名の参勤交代や年貢米の輸送などに利用された。中山道の横川・五料（いずれも安中市）・上豊岡（高崎市）には県指定史跡の茶屋本陣が残り、山間地の街道沿いには、当時の宿場や古い町並みの残る集落が点在している。

近世以降は養蚕が盛んとなり、明治５年（1872）には官営の富岡製糸場（富岡市　国宝、国重文・国史跡）が建設された。日本の近代化を支え絹産業の技術革新に貢献した富岡製糸場は、養蚕法の研究と指導を行っていた高山社跡（藤岡市　国史跡）、蚕種の貯蔵施設である荒船風穴（下仁田町　国史跡）と田島弥平旧宅（伊勢崎市　国史跡）と合わせて世界遺産に登録されている。他にも、蚕糸業に関わる工場や事務所である旧新町紡績所（高崎市　国重文・国史跡）や旧碓氷社本社事務所（安中市　県重文）、倉庫、養蚕農家に加え、生糸の輸送を担った旧碓氷峠鉄道施設（安中市　国重文）等の多彩な文化財が残されている。

この他、箕輪城跡（高崎市　国史跡）や国峯城址（甘楽町　町史跡）、松井田城（安中市　市史跡）をはじめとする中世の山城や、近世の大名庭園である楽山園（甘楽町　国名勝）、近世の優れた装飾建築で知られる貫前神社や妙義神社（いずれも富岡市　国重文）、榛名神社（高崎市　国重文）等の社殿等が主要な文化財としてあげられる。

第３表　西毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧（1）

No.	文化財種類	名称	所在市町村
1	国重文(建)	貫前神社	富岡市
2	国重文(建)	旧茂木家住宅	富岡市
3	国重文(建)	旧黒澤家住宅	上野村
4	国重文(建)	妙義神社	富岡市
5	国重文(建)	旧碓氷峠鉄道施設	安中市
6	国重文(建)	榛名神社	高崎市
7	国重文(建)	旧富岡製糸場	富岡市
8	国重文(建)	旧新町紡績所	高崎市
9	国重文(美)	紙本著色地蔵菩薩霊験記	富岡市 **
10	国重文(美)	絹本墨画 出山釈迦図	高崎市 *
11	国重文(美)	絹本著色 羅漢像 金大受筆	高崎市 *
12	国重文(美)	紙本墨画山水図「赤縄」印	高崎市 *
13	国重文(美)	紙本著色 泰西王侯図	高崎市 *
14	国重文(美)	白銅月宮鑑	富岡市
15	国重文(美)	銅鏡(梅雀文様・竹虎文様)	富岡市
16	国重文(美)	太刀 銘了戒（附 銀造沃懸地太刀拵）	高崎市 *
17	国重文(美)	紙本墨書長楽寺文書(115通)	高崎市 *
18	国重文(美)	上野国保渡田薬師塚古墳出土品	高崎市
19	国重文(美)	埴輪 鶏	高崎市 *
20	国重文(美)	上野国八幡観音塚古墳出土品	高崎市
21	国重文(美)	緑釉水注、緑釉埦、緑釉皿、銅鋺 ※山王廃寺(前橋市)出土品	高崎市 *
22	国重文(美)	岩版　※伊勢崎市北米岡出土	高崎市 *
23	国重文(美)	上野千網谷戸遺跡出土品	高崎市 *
24	国重文(美)	平井１号古墳出土品	藤岡市
25	国重文(美)	群馬県金井遺跡群出土品	高崎市 *・(渋川市)
26	国重無形	木工芸　須田賢司	甘楽町
27	国重有民	上州の小正月ツクリモノ	高崎市 *
28	国重無民	安中中宿の燈籠人形	安中市
29	国史跡	浅間山古墳	高崎市
30	国史跡	大鶴巻古墳	高崎市
31	国史跡	七輿山古墳	藤岡市
32	国史跡	観音塚古墳	高崎市
33	国史跡	観音山古墳	高崎市
34	国史跡	保渡田古墳群	高崎市
35	国史跡	白石稲荷山古墳	藤岡市
36	国史跡	築瀬二子塚古墳	安中市
37	国史跡	箕輪城跡	高崎市
38	国史跡	上野国分寺跡	高崎市・(前橋市)
39	国史跡	本郷埴輪窯跡	藤岡市
40	国史跡	譲原石器時代住居跡	藤岡市
41	国史跡	日高遺跡	高崎市
42	国史跡	中高瀬観音山遺跡	富岡市
43	国史跡	北谷遺跡	高崎市
44	国史跡	上野国多胡郡正倉跡	高崎市
45	国特史跡	多胡碑	高崎市
46	国特史跡	山上碑及び古墳	高崎市
47	国特史跡	金井沢碑	高崎市
48	国史跡	旧富岡製糸場	富岡市
49	国史跡	高山社跡	藤岡市
50	国史跡	荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡	下仁田町・中之条町
51	国史跡	旧新町紡績所	高崎市
52	国史跡	上野国分尼寺跡	高崎市
53	国史跡	中山道	安中市
54	国名勝	妙義山	富岡市・安中市・下仁田町
55	国名勝	楽山園	甘楽町
56	国名・天	三波川(サクラ)	藤岡市
57	国名・天	三波石峡	藤岡市
58	国天然	榛名神社の矢立スギ	高崎市
59	国天然	安中原市のスギ並木	安中市
60	国天然	上野村亀甲石産地	上野村
61	国天然	生犬穴	上野村
62	国天然	上野楢原のシオジ林	上野村
63	国選択無民	貫前神社の鹿占習俗	富岡市
64	国選択無民	乙父のおひながゆ	上野村
65	国選択無民	大日向の火とぼし	南牧村
66	県重文(建)	松井田八幡宮本殿	安中市
67	県重文(建)	不動寺の仁王門	安中市
68	県重文(建)	妙義神社石垣	富岡市
69	県重文(建)	旧下田邸書院及び庭園	高崎市
70	県重文(建)	高崎城乾櫓	高崎市
71	県重文(建)	旧碓氷社本社事務所	安中市
72	県重文(建)	榛名神社神宝殿	高崎市
73	県重文(建)	八幡八幡宮	高崎市
74	県重文(建)	板碑	富岡市
75	県重文(建)	石塔婆	安中市
76	県重文(建)	仁治の碑	富岡市
77	県重文(建)	松岸寺の五輪塔	安中市
78	県重文(建)	笠塔婆及び板碑	甘楽町
79	県重文(建)	笠塔婆	甘楽町
80	県重文(建)	阿弥陀三尊画像板碑	神流町
81	県重文(美)	絹本著色 荏柄天神像	高崎市 *
82	県重文(美)	絹本墨画淡彩 呂洞賓図	高崎市 *
83	県重文(美)	絹本著色 山王曼荼羅図	高崎市 *
84	県重文(美)	絹本著色 慈覚大師像	高崎市 *
85	県重文(美)	絹本著色 無準師範像	高崎市 *
86	県重文(美)	絹本著色 牧翁了一像	高崎市 *
87	県重文(美)	絹本墨画 葡萄図(伝日観筆)	高崎市 *
88	県重文(美)	絹本墨画 枯木図	高崎市 *
89	県重文(美)	絹本墨画 蘭図(雪窓筆)	高崎市 *
90	県重文(美)	絹本墨画 月湖観音像	高崎市 *
91	県重文(美)	絹本著色 十六羅漢図	高崎市 *
92	県重文(美)	絹本墨画 三十三観音像	高崎市 *
93	県重文(美)	絹本著色 白崖宝生禅師像	高崎市 *
94	県重文(美)	絹本著色 達磨図	高崎市 *
95	県重文(美)	紙本金地著色　秋草花弁図 酒井抱一筆 孔雀牡丹図 谷文晁筆	高崎市 *
96	県重文(美)	紙本墨画 岩松尚純像	高崎市 *
97	県重文(美)	絹本著色 二十五菩薩来迎図	高崎市 *
98	県重文(美)	絹本著色 聖徳太子孝養像	高崎市 *
99	県重文(美)	絹本著色 聖徳太子孝養像	高崎市 *
100	県重文(美)	絹本著色 親鸞聖人旅姿像	高崎市 *
101	県重文(美)	絹本著色 親鸞聖人像	高崎市 *
102	県重文(美)	絹本著色 親鸞・成然両上人像	高崎市 *
103	県重文(美)	絹本著色 成然上人像	高崎市 *
104	県重文(美)	絹本著色 成然上人像	高崎市 *
105	県重文(美)	絹本著色 成然上人像	高崎市 *
106	県重文(美)	絹本著色 真宗七高祖像	高崎市 *
107	県重文(美)	絹本著色 親鸞聖人縁起絵伝	高崎市 *
108	県重文(美)	中啓 伝狩野山楽筆扇面画	高崎市 *
109	県重文(美)	絹本著色 九文人合作書画	高崎市 *
110	県重文(美)	絹本著色 秋月書屋図	高崎市 *
111	県重文(美)	紙本墨画淡彩 秋山清爽図	高崎市 *
112	県重文(美)	絹本著色 七師七友図	南牧村
113	県重文(美)	松平大和守家歴代藩主画像	高崎市 *
114	県重文(美)	柳橋水車図屏風 六曲一隻	高崎市 *
115	県重文(美)	栄朝禅師の木像	安中市
116	県重文(美)	木彫不動明王像	安中市
117	県重文(美)	木造伝徳川義季像	高崎市 *
118	県重文(美)	木造法照禅師月船琛海像	高崎市 *
119	県重文(美)	木造地蔵菩薩立像	安中市
120	県重文(美)	満行寺木彫神像等	安中市
121	県重文(美)	木造十一面観音立像(本尊)	高崎市
122	県重文(美)	木造十一面観音立像(前立)	高崎市
123	県重文(美)	木造不動明王坐像	富岡市
124	県重文(美)	鉄造薬師如来立像	藤岡市
125	県重文(美)	木造不動明王立像	高崎市 *
126	県重文(美)	木造阿弥陀如来立像	高崎市
127	県重文(美)	梵鐘	富岡市
128	県重文(美)	古鐘	安中市
129	県重文(美)	刀　表銘　濃州関住兼定作　(金銘)立袈裟籠釣瓶 裏銘　(金銘)武州江戸於神田甲賀町 出井仁左衛門切之裕正花押	高崎市 *
130	県重文(美)	刀　表銘　津田近江守助直 裏銘　元禄三年二月日	高崎市 *
131	県重文(美)	長光寺懸佛	高崎市 *

註　高崎 *：群馬県立歴史博物館蔵　高崎 **：高崎市かみつけの里博物館蔵　富岡 *：群馬県立自然史博物館蔵　富岡 **：東京国立博物館蔵

第４表　西毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧（2）

No.	文化財種類	名称	所在市町村
132	県重文(美)	梵鐘	富岡市
133	県重文(美)	刀 銘備前國住長船与三左衛門尉祐定作	高崎市
134	県重文(美)	高崎藩右京拵大小並びに武具	高崎市 *
135	県重文(美)	聞名寺の笈	安中市
136	県重文(美)	短刀 銘綱家作	安中市
137	県重文(美)	太刀　銘長光	高崎市 *
138	県重文(美)	鉄燈籠	高崎市
139	県重文(美)	太刀 銘上州住景重作	高崎市
140	県重文(美)	槍　表銘「兼定天文廿一年二月吉日」 裏銘「上州新田住人金谷帯刀所持之」	高崎市 *
141	県重文(美)	刀　表銘「秋元家臣川部儀八郎藤原正秀」 裏銘「天明五年八月日折下氏恕使鍛之男氏純帯 之」	高崎市 *
142	県重文(美)	刀　表銘「荘司筑前大掾大慶直胤」 裏銘「文政九年五月日於江戸岡谷繁製作ヲ見テ求之」	高崎市 *
143	県重文(美)	脇差　表銘「山城大掾藤原國包」 裏銘「寛永十年十月日」	高崎市 *
144	県重文(美)	八幡八幡宮の算額	高崎市
145	県重文(美)	紙本墨書 永禄日記	高崎市 *
146	県重文(美)	墨書 大般若経	上野村
147	県重文(美)	関流算額 文化八年銘	高崎市
148	県重文(美)	諸大家連歌帖 高崎藩主大河内家伝来	高崎市
149	県重文(美)	新田家関係文書(正木家文書ほか)	高崎市 *
150	県重文(美)	榛名神社文書	高崎市
151	県重文(美)	小林家文書	高崎市 *
152	県重文(美)	櫻井家旧蔵「高崎城絵図並びに文書」	高崎市
153	県重文(美)	剣崎天神山古墳出土石製模造品	高崎市 *
154	県重文(美)	小鳥が島出土鏡(附 宝塔及び経筒の残欠)	高崎市 *
155	県重文(美)	保渡田Ⅶ遺跡出土遺物	高崎市
156	県重文(美)	沖Ⅱ遺跡出土遺物	藤岡市
157	県重文(美)	剣崎長瀞西遺跡出土品	高崎市
158	県重文(美)	西大山遺跡出土馬具	甘楽町
159	県重文(美)	山王廃寺出土塑像頭部	高崎市 **
160	県重文(美)	中曽根家和算資料	高崎市
161	県重文(美)	島霞谷・隆夫妻関係資料	高崎市 *・東京都文京区
162	県重文(美)	小野直文書	安中市
163	県重文(美)	後閑家文書	安中市
164	県重有民	けずりばなコレクション	高崎市 *
165	県重有民	群馬の養蚕・製糸用具	高崎市 *
166	県重無民	貫前神社の鹿占習俗	富岡市
167	県重無民	乙父のおひながゆ	上野村
168	県重無民	大日向の火とぼし	南牧村
169	県重無民	那須の獅子舞	甘楽町
170	県重無民	榛名神社神代神楽	高崎市
171	県重無民	神流川のお川瀬下げ神事	上野村・神流町
172	県重無民	天引の麦祭り	甘楽町
173	県史跡	しどめ塚(人見塚)	高崎市
174	県史跡	伊勢塚古墳	藤岡市
175	県史跡	安楽寺古墳	高崎市
176	県史跡	笹森古墳	甘楽町
177	県史跡	皇子塚古墳	藤岡市
178	県史跡	平井地区１号古墳	藤岡市
179	県史跡	後閑３号墳	安中市
180	県史跡	下増田上田中１号墳	安中市
181	県史跡	北新波砦跡	高崎市
182	県史跡	旧小幡藩武家屋敷松浦氏屋敷	甘楽町
183	県史跡	平井城・金山城跡	藤岡市
184	県史跡	譲原石器時代聚落跡	藤岡市
185	県史跡	造石法華経供養遺跡	甘楽町
186	県史跡	倉渕村長井石器時代住居跡	高崎市
187	県史跡	若田原遺跡群	高崎市
188	県史跡	入野遺跡	高崎市
189	県史跡	中大塚縄文時代敷石遺構	藤岡市
190	県史跡	千駄木遺跡	安中市
191	県史跡	牛田廃寺跡	藤岡市
192	県史跡	小野良佐栄重の墓	安中市
193	県史跡	江原源左衛門重久の墓(附 江原家文書)	高崎市
194	県史跡	小栗上野介忠順の墓	高崎市
195	県史跡	高橋道斉の墓	下仁田町
196	県史跡	一里塚	高崎市
197	県史跡	洗心亭	高崎市
198	県史跡	馬庭念流道場及び関係文書	高崎市
199	県史跡	五料の茶屋本陣・お西	安中市
200	県史跡	横川の茶屋本陣	安中市
201	県史跡	上豊岡の茶屋本陣	高崎市
202	県史跡	五料の茶屋本陣・お東	安中市
203	県天・名	蝉の渓谷	南牧村
204	県天・名	線ヶ滝	南牧村
205	県天然	細野のヒガンザクラ	安中市
206	県天然	仁叟寺のカヤ	高崎市
207	県天然	黒滝山の大スギ	南牧村
208	県天然	ハクモクレン	高崎市
209	県天然	秋畑の大ツバキ	甘楽町
210	県天然	里見の大ナシ	高崎市
211	県天然	萩原の大笠マツ	高崎市
212	県天然	中木のサザンカ	安中市
213	県天然	中正寺のシダレザクラ	上野村
214	県天然	妙義アメリカショウナンボク	富岡市
213	県天然	中正寺のシダレザクラ	上野村
214	県天然	妙義アメリカショウナンボク	富岡市
215	県天然	水宮神社の大ケヤキ	藤岡市
216	県天然	西広寺のツバキ	安中市
217	県天然	白井関所のイチイ	上野村
218	県天然	神行阿弥陀堂の大サワラ	上野村
219	県天然	菅原神社の大ヒノキ	富岡市
220	県天然	妙義神社のウラジロガシ	富岡市
221	県天然	常行院のラカンマキ	高崎市
222	県天然	貫前神社のスダジイ	富岡市
223	県天然	笹塒山のヒカリゴケ及びウサギコウモリ生息洞窟	高崎市
224	県天然	不二洞	上野村
225	県天然	瀬林の連痕	神流町
226	県天然	野栗の材化石	上野村
227	県天然	兜岩層産出のカエル化石	富岡市 *
228	県天然	オオツノシカの化石骨	富岡市
229	県天然	高崎市吉井町産出のジョウモウクジラ化石	富岡市 *
230	国登録(民)	南牧村の山村生産用具	南牧村
231	国登録(建)	吉田家住宅和泉庄御殿	高崎市
232	国登録(建)	高崎白衣大観音像	高崎市
233	国登録(建)	小見家住宅(水村園)	高崎市
234	国登録(建)	川端家住宅	藤岡市
235	国登録(建)	水琴亭	高崎市
236	国登録(建)	茂原家住宅	甘楽町
237	国登録(建)	豊田屋旅館本館	高崎市
238	国登録(建)	北甘変電所	富岡市
239	国登録(建)	日本基督教団安中教会	安中市
240	国登録(建)	一宮家住宅(般若坊)	高崎市
241	国登録(建)	門倉家住宅(善徳坊)主屋	高崎市
242	国登録(建)	鐸木家住宅(本坊)門	高崎市
243	国登録(建)	三沢川砂防堰堤	高崎市
244	国登録(建)	烏川上流砂防堰堤	高崎市
245	国登録(建)	榛名川上流砂防堰堤	高崎市
246	国登録(建)	神戸家住宅座敷蔵(双渓堂)	下仁田町
247	国登録(建)	里見家住宅	下仁田町
248	国登録(建)	日本聖公会高崎聖オーガスチン教会 聖堂	高崎市
249	国登録(建)	富岡市社会教育館	富岡市
250	国登録(建)	旧万場町役場土蔵(ギャラリー万)	神流町
251	国登録(建)	割烹旅館ときわ荘	富岡市
252	国登録(建)	荻野家住宅	下仁田町
253	国登録(建)	富岡市講堂(旧富岡尋常高等小学校講堂)	富岡市
254	国登録(建)	旧一ノ宮町役場庁舎	富岡市
255	国登録(建)	新島学園短期大学研究棟（旧高崎市立女子高等学校円形校舎）	高崎市
256	国登録(建)	群馬県立富岡高等学校（旧七日市藩陣屋）	富岡市
257	国登録(建)	旧群南村役場庁舎（高崎市歴史民俗資料館）	高崎市
258	県登録(建)	吉井郷土資料館	高崎市
259	県登録(歴)	古墳調査台帳（『上毛古墳綜覧』作成基礎資料）	高崎市 *

註　高崎 *：群馬県立歴史博物館蔵　高崎 **：高崎市かみつけの里博物館蔵　富岡 *：群馬県立自然史博物館蔵　富岡 **：東京国立博物館蔵

民俗文化財は、東部の町村部を中心に乙父のおひながゆ（上野村　国記録選択・県重無形民俗）や大日向の火とぼし（南牧村　国記録選択・県重無形民俗）等、国・県指定の重要無形民俗文化財が残されている一方、廃絶や中断している神楽や獅子舞等の民俗芸能も多い。

（3）東毛地域

地域の概要　桐生市、太田市、館林市、みどり市、邑楽郡板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町の 4 市 5 町からなる。北部は足尾山地の南端部と赤城山東南麓から続く丘陵地帯で、南部の太田市、館林市、邑楽郡は平野となっている。南西部には渡良瀬川が形成した大間々扇状地が広がる。東側は栃木県、南側は埼玉県と接している。

主な文化財　旧石器時代から縄文時代の遺跡としては、岩宿遺跡（みどり市　国史跡）や西鹿田中島遺跡（みどり市　国史跡）が著名である。

古墳時代には、数多くの大型前方後円墳が累々と造られ、中でも天神山古墳（太田市　国史跡）は長持形石棺を持ち、ヤマト王権と強くつながる首長の存在が考えられている。古代には東山道駅路が太田市域を東西に走り、駅路（下新田ルート）に隣接して新田郡の役所跡である上野国新田郡家跡（太田市　国史跡）が発見された。

中世に入ると、新田氏が再開発した新田荘が新田郡全域と勢多郡、佐位郡の一部に展開し、新田氏に関連する城館や寺社が多く残されている。鎌倉攻めの際に新田義貞が挙兵した生品神社境内（太田市）も、新田荘遺跡の一部として国指定史跡となっている。また、太田市北部の金山丘陵上に築造された金山城跡（太田市　国史跡）をはじめ、山上城跡（桐生市　県史跡）や小泉城跡（大泉町　町指定）等、戦国の争乱の舞台となった多くの城跡が残されている。

近世には、足尾銅山の銅を江戸に輸送するために整備された足尾銅山街道や、桐生と江戸を結ぶ織物の輸送路である古戸・桐生道の他、日光例幣使道、古河街道、館林道等の街道が発達した。絹織物業が盛んであった桐生市域では、先進地である京都西陣の技術を導入するなど技術の向上

第 5 表　東毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧（1）

No.	文化財種類	名称	所在市町村	No.	文化財種類	名称	所在市町村
1	国重文(建)	雷電神社	板倉町	25	国重伝建	桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区	桐生市
2	国重文(建)	東照宮	太田市	26	国重文景	利根川・渡良瀬川合流域の水場景観	板倉町
3	国重文(建)	旧群馬県衛生所	桐生市	27	国選択無形	紋章上絵	桐生市
4	国重文(建)	彦部家住宅	桐生市	28	県重文(建)	長楽寺の勅使門	太田市
5	国重文(建)	旧中島家住宅	太田市	29	県重文(建)	旧上毛モスリン事務所	館林市
6	国重文(建)	曹源寺栄螺堂	太田市	30	県重文(建)	長楽寺三仏堂及び太鼓門	太田市
7	国重文(建)	塔婆(石造三重塔)	桐生市	31	県重文(建)	雷電神社社殿	板倉町
8	国重文(建)	長楽寺宝塔	太田市	32	県重文(建)	栗生神社本殿	桐生市
9	国重文(建)	天満宮社殿	桐生市	33	県重文(建)	冠稲荷神社	太田市
10	国重文(美)	銅造阿弥陀如来及両脇侍立像	桐生市	34	県重文(建)	関の磨崖仏	桐生市
11	国重文(美)	銅五種鈴	千代田町	35	県重文(建)	不動まんだら板碑	館林市
12	国重文(美)	群馬県下宿遺跡出土品	太田市	36	県重文(建)	青石地蔵板碑	館林市
13	国史跡	女体山古墳	太田市	37	県重文(建)	地蔵菩薩画像板碑	千代田町
14	国史跡	天神山古墳	太田市	38	県重文(美)	絹本著色 律台栄宗像	太田市
15	国史跡	金山城跡	太田市	39	県重文(美)	板面著色 三十六歌仙図	太田市
16	国史跡	武井廃寺塔跡	桐生市	40	県重文(美)	聖観音像	太田市
17	国史跡	岩宿遺跡	みどり市	41	県重文(美)	木彫阿弥陀如来像	桐生市
18	国史跡	新田荘遺跡	太田市	42	県重文(美)	木彫阿弥陀如来像	桐生市
19	国史跡	西鹿田中島遺跡	みどり市	43	県重文(美)	木彫千手観音像	板倉町
20	国史跡	上野国新田郡家跡	太田市	44	県重文(美)	木造伝徳川義季夫人像	太田市
21	国史跡	高山彦九郎宅跡	太田市	45	県重文(美)	木造性信上人坐像	板倉町
22	国史跡	生品神社境内(新田義貞挙兵伝説地)	太田市	46	県重文(美)	虚空蔵菩薩像	桐生市
23	国名勝	躑躅ヶ岡(ツツジ)	館林市	47	県重文(美)	木造阿弥陀三尊像	千代田町
24	国天然	永明寺のキンモクセイ	邑楽町	48	県重文(美)	長楽寺三仏堂三尊仏	太田市

第６表　東毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧（2）

No.	文化財種類	名称	所在市町村
49	県重文(美)	木造虚空蔵菩薩坐像	みどり市
50	県重文(美)	寳林寺黄檗宗彫像群	千代田町
51	県重文(美)	木造阿弥陀如来坐像	館林市
52	県重文(美)	館林城鐘	館林市
53	県重文(美)	刀 銘一竿子忠綱雕同作	桐生市
54	県重文(美)	刺繍涅槃図	桐生市
55	県重文(美)	刀 銘(巴紋刻印)於東武藤枝太郎英義作之	桐生市
56	県重文(美)	常鑑寺の梵鐘	桐生市
57	県重文(美)	紺紙金泥 虚空蔵菩薩経	桐生市
58	県重文(美)	最上流算額 文化十一年銘	太田市
59	県重文(美)	封内経界図誌	館林市
60	県重文(美)	三角縁神獣鏡	板倉町
61	県重文(美)	世良田諏訪下古墳群出土埴輪等	太田市
62	県重文(美)	普光庵月船琛海墓所出土品	太田市
63	県重文(美)	下田遺跡２号河道跡出土縄文時代遺物	太田市
64	県重文(美)	境ヶ谷戸遺跡２号住居跡出土遺物一括	太田市
65	県重文(美)	前六供遺跡３号井戸出土遺物一括	太田市
66	県重文(美)	古海松塚１１号古墳出土品一括	大泉町
67	県重無民	龍舞賀茂神社の萬燈祭	太田市
68	県史跡	二ツ山古墳１号墳・２号墳	太田市
69	県史跡	藪塚湯之入 北山古墳・西山古墳	太田市
70	県史跡	鶴山古墳	太田市
71	県史跡	塚廻古墳群第４号古墳	太田市
72	県史跡	朝子塚古墳	太田市
73	県史跡	中塚古墳	桐生市
74	県史跡	古海原前１号古墳	大泉町
75	県史跡	山上城跡	桐生市
76	県史跡	彦部氏屋敷	桐生市
77	県史跡	縁切寺満徳寺遺跡	太田市
78	県史跡	阿左美縄文式文化住居跡	みどり市
79	県史跡	中溝・深町遺跡	太田市
80	県史跡	毛呂権蔵の墓	太田市
81	県史跡	岡登景能の墓	みどり市
82	県史跡	大谷休泊の墓	館林市
83	県史跡	榊原康政の墓	館林市
84	県史跡	桐原郷蔵及び郷蔵文書	みどり市
85	県史跡	塔ノ沢の石造釈迦涅槃像	みどり市
86	県天然	伝桐生大炊介手植ヤナギ	桐生市
87	県天然	冠稲荷のボケ	太田市
88	県天然	相生のマツ	桐生市
89	県天然	野の大クスノキ	桐生市
90	県天然	神光寺の大カヤ	邑楽町
91	県天然	茂林寺のラカンマキ	館林市
92	県天然	高島小学校のトウグミ	邑楽町
93	県天然	黒保根栗生神社の大スギ	桐生市
94	県天然	崇禅寺のイトヒバ	桐生市
95	県天然	桐生城跡日枝神社のクスノキ群	桐生市
96	県天然	新里のサクラソウ群落	桐生市
97	県天然	賀茂神社のモミ群	桐生市
98	県天然	茂林寺沼及び低地湿原	館林市
99	国登録(建)	桐生織物会館旧館	桐生市
100	国登録(建)	水道資料館(元宿浄水場旧事務所)	桐生市
101	国登録(建)	水道山記念館(旧配水事務所)	桐生市
102	国登録(建)	桐生市水道局	桐生市
103	国登録(建)	桐生市立西公民館	桐生市
104	国登録(建)	分福酒造店舗	館林市
105	国登録(建)	群馬大学工学部(旧桐生高等染織学校)	桐生市
106	国登録(建)	旧株式会社金芳織物工場	桐生市
107	国登録(建)	光恩寺	千代田町
108	国登録(建)	旧東村花輪小学校	みどり市
109	国登録(建)	正田醤油正田記念館他	館林市
110	国登録(建)	片山家住宅	太田市
111	国登録(建)	森合資会社事務所	桐生市＊
112	国登録(建)	ＭＡＥＨＡＲＡ 20th	桐生市
113	国登録(建)	寺内家住宅	桐生市
114	国登録(建)	旧松岡商店	桐生市
115	国登録(建)	無鄰館(旧北川織物工場)	桐生市＊
116	国登録(建)	中村弥市商店	桐生市＊
117	国登録(建)	旧世良田村役場	太田市
118	国登録(建)	小川家住宅	太田市
119	国登録(建)	上毛電気鉄道西桐生駅	桐生市
120	国登録(建)	旧尾関家住宅	桐生市
121	国登録(建)	旧堀祐織物工場(美容院アッシュキリュウ)	桐生市
122	国登録(建)	旧曽我織物工場(佐啓産業本町工場)	桐生市＊
123	国登録(建)	金善ビル	桐生市
124	国登録(建)	後藤織物	桐生市
125	国登録(建)	森秀織物工場	桐生市
126	国登録(建)	森島家住宅	桐生市
127	国登録(建)	曽我家住宅	桐生市＊
128	国登録(建)	須藤家住宅	桐生市
129	国登録(建)	平田家住宅	桐生市＊
130	国登録(建)	島田商店店舗	桐生市
131	国登録(建)	藤生家住宅	桐生市
132	国登録(建)	荻原家住宅	桐生市
133	国登録(建)	上毛電気鉄道渡良瀬川橋梁	桐生市
134	国登録(建)	旧今泉家住宅	みどり市
135	国登録(建)	高草木家住宅	みどり市
136	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道上神梅駅本屋及びプラットホーム	みどり市
137	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道笠松トンネル	みどり市
138	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道吉ノ沢架樋	みどり市
139	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道名越トンネル	みどり市
140	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道沢入駅上下線プラットホーム及び待合所	みどり市
141	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道神戸駅	みどり市
142	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道第二神土トンネル	みどり市
143	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道第一神土トンネル	みどり市
144	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道小中川橋梁	みどり市
145	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道唐沢橋梁	みどり市
146	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道小黒川橋梁	みどり市
147	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道水沼沢橋梁	桐生市
148	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道不動沢橋梁	桐生市
149	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道江戸川橋梁	桐生市
150	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道城下トンネル	桐生市
151	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道城下橋梁	桐生市
152	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道深沢橋梁	桐生市・みどり市
153	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道第三神梅トンネル	みどり市
154	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道第二神梅トンネル	みどり市
155	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道第一神梅トンネル	みどり市
156	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道手振山架樋	みどり市
157	国登録(建)	わたらせ渓谷鐵道大間々駅	みどり市
158	国登録(建)	岡直三郎商店大間々工場	みどり市
159	国登録(建)	金子家住宅	桐生市
160	国登録(建)	小林家住宅（旧小武織物有限会社）	桐生市
161	国登録(建)	旧金谷家住宅	桐生市
162	国登録(建)	旧堀家住宅	桐生市
163	国登録(建)	旧館林二業見番組合事務所	館林市
164	国登録(建)	今井酒造店	太田市
165	国登録(建)	野口家住宅主屋	みどり市
166	国登録(建)	旧赤城山綱索鉄道赤城山頂駅駅舎及びプラットホーム	桐生市
167	国登録(建)	日本基督教団桐生教会教会堂	桐生市
168	国登録(美)	相澤忠洋蒐集考古資料	みどり市
169	県登録(歴)	相澤忠洋関係資料	みどり市

註　桐生市＊は 25：桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区内に所在

に努め、「西の西陣、東の桐生」と称されるまでになった。また、曹源寺栄螺堂（太田市　国重文）は現在国内に現存する栄螺堂建築６棟の内の１棟で規模は最大、建造年代は寛政 10 年（1798）で２番目の古さを誇る。

近代に入ると、足尾の銅や桐生の織物を輸送するために鉄道の敷設が進み、当時の国鉄や東武鉄道、上毛電気鉄道等の鉄道網が整備される。これらの中には、駅舎やトンネル等の鉄道施設が国の登録有形文化財となっているものもある。絹織物産業も引き続き繁栄しており、多くの工場や事務所、養蚕農家等が残されている。その中でも、現在の桐生市本町１・２丁目地区は、江戸時代初頭に計画的に街並みが形成され、近世から近代に至る多くの絹織物産業に関する歴史的建造物が残り、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。また、旧中島家住宅（太田市　国重文）は昭和６年（1931）に地方に建てられた御殿で、近代和風建築として価値が高い。

利根川と渡良瀬川に挟まれた館林市と邑楽郡域は、低い台地と沖積地が広がる平坦な地形で、日本遺産に認定された茂林寺沼や多々良沼、城沼等が織りなす「里沼」（館林市）や、利根川と渡良瀬川の合流点に形成された「水場」（板倉町）等の独特の景観を見ることができる。その一方、かつては洪水の常襲地域であり、水害に備えた水塚や揚舟等の設備が残されている。

民俗文化財としては、神楽や獅子舞等の民俗芸能や地区の祭礼等が各地に残っているが、国・県の指定を受けているのは、県の重要無形民俗文化財である龍舞賀茂神社の萬燈祭（太田市）のみである。廃絶や中断しているものも多く、今後調査や指定を進めていく必要がある。

（４）北毛地域

地域の概要　県北部の沼田市、吾妻郡中之条町・長野原町・嬬恋村・草津町・高山村・東吾妻町、利根郡片品村・川場村・昭和村・みなかみ町の１市５町５村からなる。東側では栃木県、北側は福島県と新潟県、西側は長野県と接している。地域の大半は県境の山地から続く中山間地域で、利根川や片品川、吾妻川等の河川沿いに比較的平坦な段丘や盆地が広がる。

主な文化財　本地域の８割以上が森林であり、尾瀬（片品村　国特別天然記念物）や浅間山熔岩樹型（嬬恋村　国特別天然記念物）、吹割渓ならびに吹割瀑（沼田市　国天然記念物・名勝）や、多くの希少な動植物の生息地や群生地等が所在している。

河川沿いの台地や段丘上を中心に遺跡が分布しており、その中でも矢瀬遺跡（みなかみ町　国史跡）は、縄文時代後晩期の集落全体が残されていた遺跡として著名である。また川沿いの岩陰や洞窟を利用した岩陰遺跡が比較的多く、国内最古級の縄文時代の人骨が発見された居家以岩陰群（長野原町）や、弥生時代の再葬墓である岩櫃山鷹の巣岩陰遺跡（東吾妻町　町史跡）などが知られている。古墳時代の後期には群集墳が造られ、奈良古墳群（沼田市　県史跡）や塚原古墳群（みなかみ町　町史跡）、四戸の古墳群（東吾妻町　町史跡）等が県や町の史跡となっている。奈良古墳群は、多くの馬具が副葬されていたことがわかっており、馬の生産に係わる集団が存在していたと考えられている。

戦国時代に関東管領上杉氏が逃亡すると越後上杉氏と武田氏が争い、その後、後北条氏と真田氏との攻防の舞台となっており、岩櫃城跡（東吾妻町　国史跡）、や名胡桃城址（みなかみ町　県史跡）、沼田城跡（沼田市　市史跡）をはじめとする多くの城館が築かれている。山間地域であるため比較的開発が進んでおらず、当時の山城の構造を良好に残しているものも多い。

第７表　北毛地域の国・県指定・選択・選定・登録文化財一覧

No.	文化財種類	名称	所在市町村
1	国重文(建)	薬師堂	中之条町
2	国重文(建)	旧生方家住宅	沼田市
3	国重文(建)	富沢家住宅	中之条町
4	国重文(建)	旧戸部家住宅	みなかみ町
5	国重文(建)	丸沼堰堤	片品村
6	国重文(美)	紫紙金字華厳経巻第六十五	みなかみ町
7	国重文(美)	紺紙銀字華厳経巻第一	みなかみ町
8	国重文(美)	大般若経巻第二百五十七	みなかみ町
9	国重有民	上州藤原(旧雲越家)の生活用具及び民家	みなかみ町
10	国重無民	上州白久保のお茶講	中之条町
11	国重無民	片品の猿追い祭	片品村
12	国史跡	岩櫃城跡	東吾妻町
13	国史跡	水上石器時代住居跡	みなかみ町
14	国史跡	矢瀬遺跡	みなかみ町
15	国史跡	荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡	下仁田町・中之条町
16	国名勝	吾妻峡	長野原町・東吾妻町
17	国名勝	湯畑	草津町
18	国名天	吹割渓ならびに吹割瀑	沼田市
19	国天然	原町の大ケヤキ	東吾妻町
20	国天然	薄根の大クワ	沼田市
21	国天然	湯の丸レンゲツツジ群落	嬬恋村
22	国天然	草津白根のアズマシャクナゲおよび ハクサンシャクナゲ群落	草津町
23	国天然	六合チャツボミゴケ生物群集の鉄鉱生成地	中之条町
24	国天然	川原湯岩脈(臥龍岩及び昇龍岩)	長野原町
25	国特天然	浅間山熔岩樹型	嬬恋村
26	国特天然	尾瀬	片品村
27	国重伝建	中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区	中之条町
28	国選択無民	尻高人形	高山村
29	国選択無民	片品の猿祭	片品村
30	国選択無民	吾妻のお茶講の習俗	中之条町
31	国選択無民	六合入山のネドフミとスゲ細工の技術	中之条町
32	県重文(建)	泰寧寺本堂欄間及び須彌壇	みなかみ町
33	県重文(建)	旧大庄屋役宅書院	みなかみ町
34	県重文(建)	泰寧寺山門	みなかみ町
35	県重文(建)	旧吾妻第三小学校校舎	中之条町
36	県重文(建)	旧沼田貯蓄銀行	沼田市
37	県重文(建)	高平の書院	沼田市
38	県重文(建)	子持神社本殿	みなかみ町
39	県重文(建)	積善館本館	中之条町
40	県重文(建)	神保家住宅（主屋・書院）	中之条町
41	県重文(建)	月夜野神社本殿	みなかみ町
42	県重文(建)	大國魂神社本殿	中之条町
43	県重文(建)	宗本寺の宝篋印塔	中之条町
44	県重文(建)	綱子の宝篋印塔	みなかみ町
45	県重文(建)	沼須砥石神社の石造七重塔	沼田市
46	県重文(美)	絹本著色 地蔵十王図	沼田市
47	県重文(美)	三光院十一面観音像	沼田市
48	県重文(美)	金銅善光寺式三尊仏	中之条町
49	県重文(美)	木造東小川大御堂の観音像	片品村
50	県重文(美)	木造馬頭観音立像	東吾妻町
51	県重文(美)	木造聖観音坐像	みなかみ町
52	県重文(美)	木造仏種慧済禅師坐像	川場村
53	県重文(美)	木造広円明鑑禅師坐像	川場村
54	県重文(美)	木造薬師如来立像及び木造十二神将像	沼田市
55	県重文(美)	木造釈迦如来坐像	川場村
56	県重文(美)	城鐘	沼田市
57	県重文(美)	太刀 銘備州長船基光	沼田市
58	県重文(美)	刀 無銘(伝長義)	沼田市
59	県重文(美)	刀 銘於南紀重國造之	東吾妻町
60	県重文(美)	蕨手刀	東吾妻町
61	県重文(美)	近衛龍山詠薬師十二神法楽十首和歌	草津町
62	県重文(美)	今井東平遺跡注口土器	嬬恋村
63	県重有民	小川島の歌舞伎舞台	みなかみ町
64	県重有民	鳥追い祭の太鼓	中之条町
65	県重有民	六合村入山の浄土信仰仏画	中之条町
66	県重無民	古馬牧の人形浄瑠璃(附 人形－33個)	みなかみ町
67	県重無民	尻高の人形浄瑠璃(附 人形－32個)	高山村
68	県重無民	東峰須川の小池祭り	みなかみ町
69	県重無民	門前春駒	川場村
70	県重無民	中之条町の鳥追い祭り	中之条町
71	県重無民	羽場日枝神社の獅子舞	みなかみ町
72	県史跡	名胡桃城址	みなかみ町
73	県史跡	長井坂城跡	渋川市・昭和村
74	県史跡	勘場木石器時代住居跡	長野原町
75	県史跡	天明三年浅間やけ遺跡	嬬恋村
76	県史跡	姉山の石組カマド	東吾妻町
77	県史跡	中山敷石住居跡	高山村
78	県史跡	梨の木平敷石住居跡	みなかみ町
79	県史跡	熊倉遺跡	中之条町
80	県史跡	中居屋重兵衛の墓(附 関係文書)	嬬恋村
81	県史跡	猿ヶ京関所跡並びに旧役宅	みなかみ町
82	県史跡	奈良古墳群	沼田市
83	県名・天	川手山洞窟群及びズニ石	みなかみ町
84	県天・名	大峰山浮島及び湿原植物	みなかみ町
85	県天然	荘田神社の大イチョウ	みなかみ町
86	県天然	上津のウバザクラ	みなかみ町
87	県天然	村主の大ケヤキ	みなかみ町
88	県天然	相俣のさかさザクラ	みなかみ町
89	県天然	泉竜寺のコウヤマキ	高山村
90	県天然	須賀神社の大ケヤキ	沼田市
91	県天然	高山のゴヨウツツジ	高山村
92	県天然	中之条のサイカチ	中之条町
93	県天然	川田神社の大ケヤキ	沼田市
94	県天然	鳴尾の熊野神社大スギ	嬬恋村
95	県天然	発知のヒガンザクラ	沼田市
96	県天然	親都神社の大ケヤキ	中之条町
97	県天然	吉祥寺のヒメコマツ	川場村
98	県天然	雲昌寺の大ケヤキ	昭和村
99	県天然	大岩の三叉スギ	中之条町
100	県天然	入山世立のシダレグリ	中之条町
101	県天然	書院の五葉マツ	沼田市
102	県天然	大久保のナツグミ	中之条町
103	県天然	駒岩のヒイラギ	中之条町
104	県天然	稲田のヤマナシ	東吾妻町
105	県天然	唐堀のモクゲンジ	東吾妻町
106	県天然	しばぎわの大イチイ	片品村
107	県天然	しばぎわのシナノキ	片品村
108	県天然	摺渕のヒメコマツ	片品村
109	県天然	金井沢のアカマツ	片品村
110	県天然	中之条高校のラクウショウ	中之条町
111	県天然	伊賀野のモミ	中之条町
112	県天然	針山の天王ザクラ	片品村
113	県天然	武尊牧場レンゲツツジ群落	片品村
114	県天然	入須川のヒカリゴケ自生地	みなかみ町
115	県天然	中山三島神社のスギ並木	高山村
116	県天然	ユビソヤナギ群落	みなかみ町
117	県天然	四万の甌穴群	中之条町
118	県天然	水上町モリアオガエル繁殖地	みなかみ町
119	県天然	大峰山モリアオガエル繁殖地	みなかみ町
120	県選定	岩島の麻栽培と精麻生産	東吾妻町
121	国登録(建)	積善館 山荘	中之条町
122	国登録(建)	旧土岐家住宅洋館	沼田市
123	国登録(建)	旧日本基督教団沼田教会紀念会堂	沼田市
124	国登録(建)	川場村歴史民俗資料館(旧川場尋常高等小学校校舎)	川場村
125	国登録(建)	平形家住宅門屋(旧中山郵便局)	高山村
126	国登録(建)	白井屋	中之条町
127	国登録(建)	町田家住宅	中之条町
128	国登録(建)	法師温泉長寿館	みなかみ町
129	国登録(建)	旧草軽電鉄北軽井沢駅舎	長野原町
130	国登録(建)	山本館本店	草津町
131	国登録(建)	群馬県立沼田高等学校（旧沼田中学校校舎）	沼田市
132	国登録(建)	旧狩宿茶屋本陣	長野原町
133	国登録(建)	旧太子駅ホッパー棟	中之条町
134	国登録(建)	廣池千九郎谷川記念館	みなかみ町
135	国登録(建)	廣池千九郎大穴記念館	みなかみ町
136	県登録(建)	旧三原郵便局舎	嬬恋村

近世に入ると街道も発達し、日本海側へ向かう三国街道や沼田街道、福島県へ抜ける会津街道、長野県方面へ向かう信州街道等が整備された。天明 3 年（1783）の浅間山噴火の際には、麓の嬬恋村をはじめ、長野原町や東吾妻町等の吾妻川流域で火砕流や岩屑なだれ、泥流等による被害を受けており、多くの被災遺跡が発見されている。
近世以降は養蚕が盛んとなり、富沢家住宅（中之条町　国重文）や神保家住宅（中之条町　県重文）等の養蚕農家や、蚕種を保存した東谷風穴（中之条町　国史跡）等がある。また、旧六合村の赤岩地区（中之条町　国重伝建）は、山間の養蚕集落の様相を今に伝えている。北毛には草津、四万等の温泉地があり、山本館本店（草津町　国登録）、積善館本館（中之条町　県重文・国登録）、法師温泉長寿館本館（みなかみ町　国登録）等の旅館の建物が残る。湯畑（草津町　国名勝）は温泉の中心部に位置する源泉で、湧き出した湯が木製の湯樋を通って流れ落ちる様子は、草津温泉を象徴する景観である。
民俗文化財は、上州白久保のお茶講（中之条町　国重無形民俗）や片品の猿追い祭（片品村　国重無形民俗）等の習俗や祭礼の他、人形浄瑠璃や歌舞伎等の民俗芸能、山間地の生活を伝える民家や民具、岩島の麻栽培と精麻生産」（東吾妻町　県選定保存技術）。中之条町や東吾妻町を中心に広く分布している鳥追いの他、神楽、獅子舞などが伝承されているが、廃絶や中断しているものも多い。

３　群馬県の歴史文化の特徴

本県の地理的・自然的・歴史的な特徴や地域ごとの文化財の様相から、群馬県の歴史文化の特徴は以下の 6 点にまとめることができる。

①　古代東国の中心地

古墳時代から古代にかけての群馬県は、ヤマト王権の所在する畿内とのつながりや豊かな生産力、渡来人がもたらした先端技術等を背景に、古代東国における政治と文化の中心的な地域として栄えていた。精巧な石室や豪華な副葬品、豊富な埴輪を持つ数々の大型の前方後円墳や、最古の石碑群である上野三碑、山王廃寺（放光寺）跡や上野国分寺跡をはじめとする寺院跡、古代上野国の新田郡や佐位郡、多胡郡の役所跡等、当時の繁栄の様子をうかがい知ることができる数多くの遺跡が残されている。

上野国の荘園を代表する新田荘には、現在、新田氏ゆかりの館跡や寺院、墓等からなる新田荘遺跡があり、当時の荘園景観を体感することができる。戦国時代に入ると合戦が常態化したため、県内各所で防御的に優れた城が築かれ、新田荘でも金山の自然地形を利用した金山城が造られた。また、県の西部から北部は上杉氏や武田氏、後北条氏、真田氏が支配をめぐって争ったことから、松井田城や岩櫃城といった地形を巧みに利用して大規模な竪堀や堀切によって守りを固めた山城が造られ、現在でも当時の姿をよくとどめている。山岳面積が広い本県では山城が多いが、平野部でも厩橋城（後の前橋城）や館林城などの拠点的な平城が存在する。

③　交通の要衝

群馬県域は、古くから日本海側や京・大阪と関東を結ぶ大動脈で、古代の東山道駅路から近世の街道、近代の鉄道網、現代の高速交通網に至るまで、縦断または横断して各地へ伸びる交通網が整備されている。これらの経路を経て、古代には畿内からの文物や技術がもたらされ、近世には絹などの特産品が各地へ運ばれていった。かつての街道沿いには、関所や本陣跡、茶屋本陣など宿場町の様子を伝える建物も多く、近代の群馬の産業を支えた鉄道施設など、交通の要衝として栄えていたことを示す文化財が保存されている。

④　蚕糸業が支えた近世の上州と近代の群馬県

群馬県は、近世以降には養蚕と絹産業が主要な産業となっており、これらに関連する文化財が多いことが特筆される。世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」を筆頭に、日本遺産に認定された「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」のストーリーを構成する養蚕農家や織物工場などの文化財に加え、養蚕に関連する信仰や習俗が多くの祭礼や神楽等として今に伝えられている。また、蚕糸業の隆盛に伴う経済力を背景に、近世以降には全国的にも優れた装飾的な建築様式の神社や寺院等が造られ、農民の間には歌舞伎や人形芝居等の民俗芸能が広まり、現在まで継承されているものも多い。近代には、蚕糸業が県内の製造業全体の発展や鉄道網の整備を促すことにもなり、現在の群馬県の文化や産業の基礎となっていた。

⑤　多くの貴重な情報を伝える被災遺跡

有史以来、浅間山や榛名山による火山災害に見舞われた県土には、火山砕屑物や泥流等によって埋め尽くされた被災遺跡が広範囲に存在する。それらの遺跡は被災時の状況をそのまま残しており、当時の生活や社会の状況を検討する上で非常に多くの情報を得ることができる。複数の時期の被災遺跡がある群馬県は、特定の時代の集落や生産遺跡等の空間モデルを描き出すとともに、その変遷を示すことも可能であり、世界的に見ても希有な地域である。

このような被災遺跡を研究することは、同様な災害が発生した際の被害想定を検討する上で大いに役立つものである。過去の歴史の解明だけでなく、未来の防災やまちづくりにも重要なデータとなることが期待される。また、東日本大震災以降、災害現場が持つ教育力に着目した災害教育の意義が提唱されているが、被災遺跡は実際に災害が発生した現場であり、災害教育へ活用することもできる。実際の災害現場に行くことは困難であるが、かつての災害現場であった被災遺跡はいつでも安全に訪れることが可能であり、被災遺跡を活用することによって従来の防災教育よりも大きな効果を得ることも可能である。

⑥　豊かな自然が織りなす独特の景観

群馬県は、その美しさが唱歌に歌われている尾瀬や、日本三大奇勝に数えられる妙義山、上毛かるたに詠まれている三波石峡等、変化に富んだ美しい自然とともに、草津温泉の湯畑や周囲の山々を借景とする楽山園、沼を要害とした城の対岸に築かれた躑躅ヶ岡（館林市　国名勝）、豊富な水によって形作られた水場景観等、自然と人間との関わりの中で形成された独特の景観が数多く存在している。豊かな自然を守り、共生してきた郷土の歴史を今に伝えている。

第８表　国・県指定等文化財数（令和８年３月 31 日現在、官報・憲法告示済みのもの）

種別	種　類	国指定			県指定			合　計		
		細別件数		種別件数	細別件数		種別件数	細別件数		種別件数
有形（重文）	建造物（近世以前 / 近代）〈うち国宝〉	24〈1〉	27	62	40	58	221	64	85	283
	建造物 (石造文化財)	3			18			21		
	美術工芸品（絵画）	5			37			42		
	美術工芸品（彫刻）	3			39			42		
	美術工芸品（工芸品）	4			39			43		
	美術工芸品（書跡）	3			12			15		
	美術工芸品（書跡及び歴史資料）	0			1			1		
	美術工芸品（古文書）	1			7			8		
	美術工芸品（考古資料）	18			22			40		
	美術工芸品（歴史資料）	1			6			6		
無形	重要無形文化財	1		1	0		0	1		1
民俗	重要有形民俗文化財	3		7	8		29	11		36
	重要無形民俗文化財	4			21			25		
記念物	史跡 (古墳)	16	52	78	26	89	189	42	141	267
	史跡 (城館址寺址遺跡)	25			32			57		
	史跡 (碑墓所その他)〈うち特別史跡〉	11〈3〉			31			42		
	名勝	5	7		1	2		6	9	
	名勝及び天然記念物	2			1			3		
	天然記念物及び名勝	1	19		3	98		4	117	
	天然記念物 (植物（独立樹）)	6			69			75		
	天然記念物 (植物群落)	5			8			13		
	天然記念物 (地質岩石)〈うち特別天然記念物〉	5〈1〉			8			13		
	天然記念物 (天然保護区)〈うち特別天然記念物〉	2〈1〉			1			3		
	天然記念物 (動物繁殖地)	0			2			2		
	天然記念物 (動物種指定)〈うち特別天然記念物〉	＊〈1〉			7			7		
合　計				148			439			587

重要伝統的建造物群保存地区	2	0	2
重要文化的景観	1	0	1
選定保存技術	0	1	1
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	10	1	11
記録作成等の措置を講ずべき無形文化財	1	0	1
登録有形民俗文化財	2	0	2
登録有形文化財（建造物）	363	2	
登録有形文化財（美術工芸品または歴史資料）	1	3	

※＊は、国指定天然記念物 (動物種指定) のカモシカ (特別)、ヤマネ、日本犬各種、鶏各種、イヌワシ、ミヤコタナゴ、アユモドキ等が県内に生息していることを示すが、全体把握が困難であるため、件数には計上しない。

※記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国記録選択）は 10 件あるが、そのうち 2 件は国の重要無形民俗文化財に、6 件は県の重要無形民俗文化財に指定されている。

４　群馬県内の文化財保存・活用の現状と課題

（１）　群馬県内の文化財の保存・活用の現状

近年の群馬県内の文化財については、平成 26 年（2014）の「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録やその後の国宝指定、平成 29 年（2017）の「上野三碑」の世界の記憶登録、令和２年（2020）の「群馬県綿貫観音山古墳出土品」の国宝指定を大きな話題としてあげることができる。その他にも、群馬県が進める東国文化周知事業や、新規の国・県指定文化財の誕生、金井東裏遺跡での「甲を着た古墳人」の発見など、国際的・全国的にみても文化財に関する大きな出来事が相次いでいる。

文化財の保護については、文化財保護法や群馬県文化財保護条例等に基づき、指定や選定、登録等の保護制度が設けられている。令和６年（2024）４月には、緩やかな規制を通じて保存を図りつつ、まちづくりや観光などへの活用を促すため、「群馬県文化財保護条例施行規則」並びに「指定等の基準」の一部改正を行い、新たに群馬県としての「文化財登録制度」を創設した。
群馬県内の国・県指定等の状況は第５表の通りである。以下、国・県指定の文化財を中心に現状を示す。

①　有形文化財

建造物　国・県指定・登録の建造物では、塔婆や宝塔の石造物を除くと、天文 16 年（1547）の雷電神社末社八幡宮稲荷神社社殿（板倉町　国重文）が最古である。寺社建築はほとんどが近世のもので、いずれも国重要文化財である玉村八幡宮（玉村町）・貫前神社（富岡市）・東照宮（太田市）・妙義神社（富岡市）・榛名神社（高崎市）・天満宮（桐生市）等に代表される群馬県の本殿建築は、江戸時代の寺社建築における装飾建築の発展過程を示していることから全国的に見ても貴重である。

その他農家や町屋といった民家や、書院、茶室、温泉旅館、御殿、城郭建築の櫓等が指定・登録されている。農家については、当時の基幹産業であった養蚕に係わるものが多い。

近代に入ると、技術革新や産業構造の変革により新たな種類の建造物が建てられる。特に絹産業に係わる建造物が多く、世界遺産の富岡製糸場（富岡市　国宝、国重文・史跡）を筆頭に、旧新町紡績所（高崎市　国重文・史跡）や旧上毛モスリン事務所（館林市　県重文）等の紡績所や織物業に関連する建造物、養蚕農家等がある。絹産業以外では、旧碓氷峠鉄道施設（安中市国重文）や丸沼堰堤（片品村　国重文）等の産業遺産、明治期に迎賓館として建設された臨江閣（前橋市国重文）等の行政機関、その他にも各種製造、流通、金融から宗教や教

国重要文化財　榛名神社拝殿（高崎市）

育・文化施設等、様々な種類の建造物が指定、登録されている。

近年は、これらの文化財建造物を積極的に活用する取組も増えてきている。建物のライトアップや、修理そのものを活用した修理体験や見学会などが人気を博しているほか、会議やコンサートの会場等として利用するユニークベニューとしての活用も増えている。前橋市の臨江閣では、将棋の竜王戦が行われたことがあり、人気プロ棋士の対局に多くの注目を集めた。

美術工芸品　美術工芸品の類型は動産の有形文化財を一括しており、絵画や彫刻から歴史資料、考古資料と多種多様な文化財を含み、種別によって指定や所有、保管状況が異なる。

絵画や彫刻は、神仏や聖人に関するものが多く、大半は寺社に伝えられてきたものである。絵画は博物館等に寄託されているものが多いが、彫刻、特に神仏の像は、所有者である寺社に保管され、信仰の対象として大切に祀られている。

工芸品は、５割以上が刀剣類で、その他には寺院や神社に伝えられてきた梵鐘等がある。刀剣は大半が個人所有であるが、梵鐘等は寺社が所有し、多くは現在でも使用されている。特筆すべきは江戸時代の横室の歌舞伎衣装（前橋市　県重文）で、天保年間（1830 年～ 1843 年）以前の豪華な衣装が保存されている。近隣の村落に貸し出していた記録も残っており、当時の農村歌舞伎の盛況ぶりをうかがうことのできる貴重な資料である。

書跡は、経典から武家の家計簿まで幅広い内容を含んでおり、国指定の３件を含む経典は美術史的にも優れたものである。その他としては、江戸時代に群馬で発展した和算に係わる算額が注目される。１件を除いては、全て個人や寺社が所有している。

古文書及び歴史資料は、中世から明治時代にかけての文書や絵図、それらに関係する資料群で、群馬県域における当時の社会情勢や政治、文化等を伝える歴史遺産である。昭和 49 年度から平成４年度（1974 ～ 1992）まで実施された群馬県史編纂事業に関わる調査を基に指定が進められているが、他の類型に比べて指定件数は少ない。資料の多くは個人や寺社に伝えられてきたが、現在は、大半が博物館等に寄託されている。県立文書館所蔵の群馬県行政文書（国重文）は近代の群馬県の歩みをよく伝えるまとまった資料である。

考古資料は、学史上著名な土偶（いわゆるハート形土偶。個人蔵。現在は東京国立博物館保管国重文）をはじめとする縄文時代の出土品や、古墳から出土した副葬品や埴輪が多い。大半が県や市町村が所有・保管しており、博物館や資料館等で展示、公開されているものも多い。その一方で、東京国立博物館が所蔵する埴輪挂甲の武人（太田市出土　国宝）をはじめとして、県外の施設・機関に展示・収蔵されているものも少なくない。

県重要文化財　横室の歌舞伎衣装（前橋市）

美術工芸品は、歴史的価値とともに美術品としても高い価値付けがされているものがあり、所有者の財産として売買されることもある。国指定の重要文化財を除けば事前の届出は不要で、売買によって所在が不明となる危険性があ

るため、群馬県では、平成 21 年度（2009）から、個人・法人が所有している国・県指定重要文化財の保存・管理に係る状況調査を実施し、それらの所在確認に努めている。

②民俗文化財

有形の民俗文化財は、上三原田の歌舞伎舞台（渋川市　国重有形民俗）等の民俗芸能に関連する舞台や道具類の他、群馬の養蚕･製糸用具（高崎市　県重有形民俗）等の生業に関わる用具類、民間信仰に係わる奉納物などである。これまでに悉皆的な調査は行われていないため、無形の民俗文化財に比べて指定件数は少ない。

無形の民俗文化財は、春日神社太々神楽の蚕の舞（前橋市　県重無形民俗）等の民俗芸能や風俗・習慣に係わる祭礼や行事等である。過去に調査を実施して報告書を作成しており、調査結果に基づいて指定を進めてきた。大半の民俗芸能や祭礼等は、行事の手順等が経験的に受け継がれており、一旦途絶えてしまうと本来の姿で復活することは困難である。食文化や手工芸等も、生活様式の変化にともなって変質、衰退し、積極的に継承していかないと知らぬ間に失われてしまいかねない。そのため、映像や聞き取り調査等によって記録を残しておくことは非常に重要であり、特に全工程に係る詳細な映像記録を継続的に作成していく必要がある。

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として国の選択を受けた 10 件について、地元市町村の教育委員会が記録の作成を行っているほか、県も、本県固有の食文化に関する無形の民俗文化財を記録作成等の措置を講ずべき文化財に選択し、調査の成果を『群馬の粉食文化･オキリコミ 調査報告書 』（群馬県教育委員会編 2018）にまとめるとともに映像記録も作成している。

民俗文化財の継承に向けては、子どもの頃から地域の民俗文化財に触れる機会を作り、担い手となって継承したいとの気持ちを持たせる取組が各地で行われている。地域の祭礼や行事に子ども会や育成会が中心となって参加したり、学校の地域学習の一環として体験学習やクラブ活動として取り組んだり、地域の民俗芸能を運動会の集団演技に取り入れるなどが試みられている。その一方で、コロナ禍を境に中断や廃絶となった取組が増加していることも明らかになっている(『令和６年度伝統文化継承事業　群馬県伝統文化調査報告書』2025 （公財）群馬県教育文化事業団)。

国重要有形民俗文化財　上三原田の歌舞伎舞台（渋川市）

舞台操作の様子

③　記念物

史跡　「上野三碑」と称される国特別史跡の多胡碑・山上碑及び古墳・金井沢碑（いずれも高崎市）を含む国指定 51 件と県指定 89 件がある。国指定の約３割が古墳であり、東日本随一の古墳大国の様相を示しているが、その一方で旧石器時代や弥生時代の史跡は極端に少なく、時代によるばらつきが大きい。また、昭和時代に指定された史跡は、縄文時代の住居１軒や古墳の墳丘のみである等、本来の遺跡の範囲に比較して指定範囲が不十分なものも多い。

国指定の史跡では、比較的公有地化や整備が進んでおり、史跡公園として県民に親しまれているものも多い。整備が進んでいる史跡では、小中学校の校外学習等で利用されたり、近隣の博物館や観光施設と合わせた県外からのバスツアーで訪問したりする例もある。かみつけの里古墳祭りや、上野国分寺まつりのように、地元市町村や民間団体が主催する史跡地を活用した催しも行われ、例年多くの見学者が訪れている。草刈り等の日常管理に地元の住民が参加するなど、地域で史跡を守っていこうとする取組も見受けられる。改正文化財保護法でうたっている、地域総がかりで文化財を継承していく取組であり、今後同様な維持管理体制の構築がますます必要となっている。

上野国分寺まつり（高崎市）

上野国分寺跡の住民ボランティアによる除草作業

名勝　国指定が７件（うち２件は名勝及び天然記念物）、県指定が２件（うち１件は名勝及び天然記念物）と、他の文化財に比較して指定件数は少ない。このうち楽山園（甘楽町）、躑躅ヶ岡（館林市）、湯畑（草津町）（いずれも国名勝）以外は自然の景勝地である。本県は、関東山地や三国山脈などの山岳地帯に囲まれ、これらの山々を水源として峡谷が発達し、諸河川が河岸段丘を形成していることで魅力的な景観がはぐくまれ、吾妻峡（長野原町・東吾妻町　国名勝）や三波石峡（藤岡市　国名勝及び天然記念物）、吹割渓ならびに吹割瀑（沼田市　国天然記念物及び名勝）

国名勝　湯畑（草津町）

等の渓谷や、妙義山（富岡市・安中市・下仁田町　国名勝）や滝沢の不動滝（前橋市　県名勝）のような自然景勝地が名勝として指定されている。

天然記念物　国指定が 19 件、県指定が 98 件あり、国指定のうち尾瀬（片品村）と浅間山熔岩樹型（嬬恋村）は特別天然記念物である。植物および植物群落が 89 件と大多数を占め、そのうち 76 件が独立樹である。名木や巨木、奇岩といった物件が指定されており、地域の歴史や住民の生活・文化と深い関連を持ち、地域のシンボル的な意味合いを持つものが多い。この他、県下全域で保護されている動物や昆虫等は、国指定が 10 件、県指定 7 件となっている。

特別天然記念物の尾瀬（片品村）は本州最大の湿原である尾瀬ヶ原を有し、希少な自然を間近に楽しむことができる。観光資源として注目され、過剰利用が問題となったこともあったが現在は解消されるとともに、様々な取組によって貴重な自然環境を守っている。また、令和 3 年度（2021）から「尾瀬ネイチャーラーニング」補助金事業を制度化し、県内外の小中学生を対象に、尾瀬のすばらしい自然を体験する活動に対する支援を行っている。

天然記念物はその希少性から盗捕される危険性が高い。環境変化による影響も受けやすく、絶滅の危機に瀕しているものも少なくない。独立樹は樹齢数百年の古木が多いが、樹勢の衰退や病気の発生などの問題を抱えるものもあり、直近の 10 年で枯死により 2 件が指定解除されている。平成 24 年（2012）の下仁田ジオパークに次いで、平成 28 年（2016）には嬬恋村と長野原町を含む一帯が「浅間山北麓ジオパーク」として日本ジオパークに認定された。このジオパークができたことで域内にある浅間山熔岩樹型の再調査と保存活用計画の策定が実施された。ジオパークとしての活用と方向を同じくして、熔岩樹型等の文化財の保存・活用を図ることにより、より強力な保護体制を構築しようとするもので、保護と活用を両立させる取組として注目される。

特別天然記念物　尾瀬（片品村）

国天然記念物　薄根の大クワ（沼田市）

④文化的景観

板倉町の「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」が国の重要文化的景観に選定されている。これは、利根川と渡良瀬川の合流域に形成された「水場」と呼ばれる地域で、頻繁に水害に見舞われながらも豊かな水の恵みを受け、様々な工夫によって生活を営んできた様子が豊かな生態系とともに良好に保全されている。

利根川・渡良瀬川合流域の水場景観（板倉町）

⑤伝統的建造物群

養蚕農家が建ち並び養蚕を主産業とした山間の集落の姿を残す中之条町六合赤岩と、多くの織物工場や店舗等の建造物が絹織物業を中心に発展した町の歴史を伝える桐生市桐生新町が、国の重要伝統的建造物群に選定されている。いずれも群馬県の特徴である蚕糸業に関連する文化財であり、日本遺産「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」を構成する文化財にもなっている。

中之条町六合赤岩重要伝統的建造物群保存地区

桐生市桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

⑥埋蔵文化財

群馬県内で埋蔵文化財包蔵地として周知されているのは、令和 7 年度（2025）末の段階で約 14,077 件に上る。標高の高い山地を除き県内全域に広がっており、平野部や河川沿いの段丘面上に多く分布している。昭和 40 年代の高度成長期以降、多くの開発事業に先立って、埋蔵文化財の発掘調査が行われてきた。群馬県は、新潟や長野に向かう新幹線や、東西南北に延びる高速道路など、高速交通網の結節点となっており、これらをはじめとした開発に伴って数多くの遺跡が調査され、膨大な出土品や調査データが蓄積されている。これらの出土品や調査データは、展示等の活用事業に使用されているが、増え続ける資料の保管場所の確保に苦労している市町村も多い。

本県の埋蔵文化財の特徴としてあげられるのが、災害の痕跡を残している遺跡が多いことである。浅間山や榛名山の噴火による被害や、平安時代の地震の痕跡等が、県土の広い範囲で確認されており、当時の被害の状況をうかがい知ることができる。災害に見舞われた地域では、厚い火山砕屑物や泥流等で当時の集落が瞬時に埋もれたことにより、大半の遺跡がその後の開発による

国史跡　矢瀬遺跡（みなかみ町）

国史跡　上野国佐位郡正倉跡（伊勢崎市）

破壊を免れ、当時の景観をそのまま現在に伝えている。これらの通常の遺跡では見ることのできない遺構や遺物の発見が、当時の生活を推測する大きな　手掛かりとして全国に注目されており、県土の歴史の具体像を明らかにするために重要な役割を果たしている。

また、埋蔵文化財の発掘調査は開発によって失われる遺跡を記録として保存するもので、通常は調査終了後に遺跡は破壊されてしまう。しかし、矢瀬遺跡（みなかみ町　国史跡）や上野国新田郡家跡（太田市　国史跡）、上野国佐位郡正倉跡（伊勢崎市　国史跡）、三津屋古墳（吉岡町　県史跡）、上野国分尼寺跡（高崎市　国史跡）、牛田廃寺跡（藤岡市　県史跡）のように、地元市町の努力により開発計画との調整を経て遺跡を保存し、後に国や県の史跡に指定された例もある。近世・近代の埋蔵文化財保護については、「群馬県埋蔵文化財発掘調査取り扱い基準」（平成 11 年 6 月制定、平成 17 年 12 月改正）において、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲として近世及び近現代の遺跡について示し、これに即した取り扱いを行ってきた。

令和 6 年の文化庁報告（「近世・近代の埋蔵文化財保護について（報告）」令和 6 年 8 月 16 日埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会）が示され、これまで以上の適切な取り扱いが求められていることから、今後の取り扱いについて、令和 8 年（2026）4 月改訂の「群馬県埋蔵文化財発掘調査取り扱い基準」を踏まえ、より適切な取り扱いを推進していく。

⑦その他の文化財

国の重要無形文化財に指定されている「木工芸」の保持者として認定された、いわゆる「人間国宝」が 1 名県内に在住しているほか、染織の工芸技術として「紋章上絵」が国の選択無形文化財に、東吾妻町の「岩島の麻栽培と精麻生産」が県の文化財保存技術に選定されている。

（２）　群馬県内の文化財の保存・活用に関する課題

文化財保護法改正の契機となった全国的な少子高齢化と過疎化や、社会情勢や住民の意識の変化、自然環境の変化等が本県の文化財の保存・活用にも深刻な影響を及ぼしており、その主な課題として以下の 8 点をあげる。

①　文化財の実態把握の不足

これまでに県及び市町村で文化財の調査を行ってきたが、実態把握が不足しているため、指定や保護の対策が取られていない文化財も多い。特に建造物や民俗文化財、古文書及び歴史資料、さらには戦時中の歴史を伝える戦争遺跡等は全体像の把握が不十分で、所有者が文化財の価値を認識しないまま取り壊したり廃棄したりしてしまう可能性もあることから、今後の調査と指定、普及啓発等の取組が必要である。また、周辺環境や景観、関連する歴史資料や伝承等を含めた、地域の文化財総体としての把握も進んでいないほか、調査体制の整備や必要な専門家の確保も大きな課題である。

②　文化財の保存・活用に係る地域の担い手不足

所有者の高齢化と継承者の不在によって維持管理が難しくなっているものや、共同体の弱体化により、地域住民が管理していた文化財や民俗芸能の維持が困難になるなど、適切な保存や確実な継承が困難になりつつある。

特に民俗文化財は、地域で継承しているものがほとんどであり、少子高齢化や過疎化による影響を受けやすい。令和６年度(2024)に公益財団法人群馬県教育文化事業団が公表した調査報告(『令和６年度伝統文化継承事業　群馬県伝統文化調査報告』令和７年３月）では、リスト化された民俗芸能 857 件のうち 368 件、祭り・行事 993 件のうち 332 件が危機または中断中または廃絶との結果が出ている。祭礼や行事の中には、参加者を確保するため開催日を土日に変更したり地域外から参加者を受け入れたりするなどの措置を取っているが、継承の危機に瀕しているものは少なくない。なお、コロナ禍はこれらの取組の中断させる大きな要因となったと考えられるが、コロナ禍を経て後もなお中断のままや廃絶となった取組が増加している現状もある。

住民への働きかけや学校との連携等による地域内での担い手の確保に加え、人口減少が進む地域では「関係人口」（コラム２参照）の増加やＵターン・Ｉターンの推進等、地域振興とあわせて取り組んでいく必要がある。

③　保存・活用に要する費用負担の増加

寺社や個人が保管している有形の文化財は、温湿度管理や防災、防犯の対策が必ずしも十分ではなく、経年劣化や盗難による被害等が懸念されている。特に、建造物や歌舞伎舞台等の有形の民俗文化財、天然記念物の独立樹等は、維持管理や修理に多額の経費が必要であるため、所有者や管理団体等の大きな負担となっている。経費の負担に耐えきれず失われてしまう文化財も多く、特に未指定の場合はその危険性が高い。修理に必要な素材の確保や技術の継承も、今後意識して取り組まなくてはならない課題である。

また、歌舞伎等の民俗芸能を継承していくためには定期的に公演等を行うことが重要であるが、相当な資金が必要なため継承団体独自での開催は困難であり、財政的な支援を必要としている。

④　周辺環境や景観を含めた保全

昨今の気候変動や市街地化の進行等により、従来よりも広範囲に保護の対策を取る必要性も高くなっている。動植物の自生地や生息地、種として指定されている動物や昆虫等の天然記念物は、環境変化の影響を強く受け、広範囲な周辺環境を保全しないと指定時の環境を持続することが困難である。景観全体を保護する伝統的建造物群保存地区や文化的景観は保護すべき対象や範囲が広大に及び、保存に悪影響を及ぼすような行為が発生しやすく、確実に保護していく方策の検討が必要である。単体の文化財も、適切な緩衝地帯の設定等、周辺の景観を含めた保護の対策を取ることが求められている。

⑤　多発する災害への対策

日本列島は４つのプレートがぶつかり合う境界付近に位置し、世界有数の火山国であるとともに地震が多発する地帯であり、平成時代には、阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめ、最大震度が６弱を越える地震が日本各地で発生した。また、近年は台風や集中豪雨による水害が毎年のように発生し、多大な被害をもたらしている。これらの災害により多くの文化財も被害を受けており、災害から守る対策と被災した資料などの救済と復旧のための体制づくりとが喫緊の課題となっている。

⑥　地方自治体の専門職員の不足

文化財の実態把握が不十分である背景には、県や市町村の文化財保護行政に携わる専門職員の不足がある。本県の行政組織における専門職員は考古学や埋蔵文化財を専門とする職員が中心で、その他の分野を専門とする職員はごくわずかである。そのため、専門職員がいない分野については調査や指定の進捗が図られていない。専門職員不在の町村も多く、また在職者の高年齢化と大量退職の時期を迎え、組織体制の弱体化が懸念されている。採用等による新たな専門職員の確保と人材育成等の行政組織での体制整備とともに、外部の人材や関係する民間団体、地元の大学や機関、企業との協働を図っていく必要がある。

⑦　多様な活用方法の検討

現在の文化財は地域づくりや地域振興、観光・産業振興等、より多様な方面への活用が求められている。このような活用を考える場合、地域の文化財の特徴を把握したうえで、地域の課題解決や目標の達成に向けた方法を検討していかなければならない。そのため、活用にあたっては教育委員会や文化振興の部局だけでなく、地域づくりや観光振興等の担当部局、地域住民、民間団体、地元企業、大学等との幅広い連携を構築する必要がある。

⑧　文化財の継承に向けた地域の総意の醸成

未指定を含めた文化財総体の保存･活用を考えたとき、地方自治体のみでの対応は困難であり、地域住民の主体的な協力が不可欠である。民俗文化財の保存団体や地域のボランティアガイド等、地域住民が参加して保存・活用を行う事例は多いが、その役割は今後一層重要となっていく。そのような取組を継続し、発展させていくためにも、文化財の継承について地方自治体と地域住民、民間団体、企業等が共通の意識を持ち、協働していけるような地域の総意をいかに醸成していくかが大きな課題となっている。

コラム２　「関係人口」

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わり「ふるさと」の地域づくりに貢献したいとの想いを持つ人々と定義される。地域の出身者やリピーター、ボランティア等、様々な形で継続的に地域と関わる外部の人材で、今後の地域づくりの担い手として期待されている。風土に根ざし醸成された文化財は、固有の地域資源としての価値を有するものが多いことから、これらを活用して「関係人口」を呼び込むと同時に、地域住民とともに伝統文化の担い手となってもらう等、文化財の保存・活用・継承についても重要な役割を担うものと思われる。